RIJAG IISIA
2012年度
社会貢献事業報告書

RIJAG Research Institute for Japan's Globalization
一般社団法人 日本グローバル化研究機構

IISIA QUADRI FOGLIO Giving the People Hope and Future

ご挨拶

少子高齢化が加速度的に進み我が国のあらゆる企業がグローバル化を視野にいれた戦略を迫られています。

同時にこれから企業・社会へ飛び込んでいく全国の大学生においても同じくその素養が求められています。このような中、グローバル人財に対する呼び声は高まるばかりです。

しかし「グローバル人財とは一体何なのか」という点について私たちは全く深く考えることなく、言葉だけが独り歩きしてしまっています。

グローバル人財に求められるのはいついかなる場所にあっても自らが置かれた文脈を知り、社会全体のために最適な行動とリーダーシップをとることが出来るための能力＝“情報リテラシー”を涵養することなのです。これがグローバル人財教育の根幹であるべきです。

こうした認識に基づき、私共は2012年度からは「グローバル人財プレップ・スクール」の全国展開を始動、一般社団法人日本グローバル化研究機構（RIJAG）が主体的に共催する形とし、公的な色彩をより強くいたしました。

一方で都内に所在する大学の片隅で行っていた“学生寺子屋”で培われた精神(スピリット)が私たちの社会貢献事業の土台であることに変わりはありません。

私たちの新たな取り組みがどのような形で結実したのかを、この年次報告書からどうぞ読み取って頂ければ幸いです。どうぞ引き続きご支援、ご指導の程衷心よりお願い申し上げます。

一般社団法人日本グローバル化研究機構　代表理事
株式会社原田武夫国際戦略情報研究所　代表（CEO）

原田武夫

東京大学法学部在学中に外交官試験に合格、外務省に外務公務員Ⅰ種職員として入省。
アジア大洋州局北東アジア課課長補佐（北朝鮮班長）を最後に自主退職。
2005年4月、任意団体として独立系シンクタンク　原田武夫国際戦略情報研究所（略称：IISIA）設立。
2007年4月に株式会社として登記、現在、IISIA代表（CEO）として活動。またNHKラジオ第1放送「ラジオあさいちばん」に月1回レギュラー出演するなど言論人としても活躍。2005年3月末より都内在学中の学生たちに“情報リテラシー”を教育する「学生寺子屋」をスタート。2008年4月より「IISIAプレップ・スクール」に、2012年4月からは「グローバル人財プレップ・スクール」に改名し同活動を拡充。自ら調査・分析レポートを執筆すると共に、国内大手企業等に対するグローバル人財研修事業を全国で展開。
2011年一般社団法人日本グローバル化研究機構（略称：RIJAG）を設立、同代表理事に就任。
2010年より、IISIAは世界有数のシンクタンクであるキール世界経済研究所が主催する官民合同フォーラム「グローバル・エコノミック・シンポジウム（GES）」のナレッジ・パートナーとしても活動しており、原田武夫は「GES Fellow Program」（若者のGES参画プログラム）のノミネーターにも任命されている。2011年開催の「グローバル・エコノミック・シンポジウム（GES）2011」(GES 2011年 年次総会)にパネリストとして招待され、以降も我が国からの数少ない出席者の一人として参画している。

運営団体（主催）

一般社団法人日本グローバル化研究機構（RIJAG）

一般社団法人日本グローバル化研究機構（RIJAG)は
日本人にとって望ましいグローバル化を研究し、日本から世界に向けて
提案を行っていくためのプラットフォーム作りを行う非営利の社団法人です。

これまで株式会社原田武夫国際戦略情報研究所（IISIA）が行って参りました
社会貢献事業を含む各種事業の内、公益性の高いものに関して
単独で主催ないしIISIAと共催することを目的として2011年9月に設立しました。

同機構では、下記の三つのミッションを掲げております。

- **激動の時代を迎えた国際社会において我が国に対して真に求められるグローバル化の方途を研究する**
- **我が国に求められる真のグローバル化に資する有意な人財を育成する**
- **これら二つの目的に資する国内外の個人・組織等との協力体制を整える**

■商号
一般社団法人日本グローバル化研究機構
Research Institute for Japan's Globalization
（略称：RIJAG)

■本社所在地
〒186-0002
東京都国立市東1-4-15　国立KTビル6階

■事業内容
株式会社原田武夫国際戦略情報研究所による
社会貢献事業の共催
グローバル人財教育に関する資格認証事業
Global Economic Symposiumとの連携

■お問い合わせ先
TEL 042-537-7750 / FAX 042-537-7751
E-mail：info@japans-globalization.org
WEB：http://www.japans-globalization.org

RIJAG

運営団体(共催)

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所(IISIA)

■商号
株式会社原田武夫国際戦略情報研究所
[英文表記]
Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.
(略称:IISIA)

■本社所在地
〒186-0002
東京都国立市東1-4-15　国立KTビル6階

■事業内容
独立系シンクタンクとしての言論活動および
それに付随する商業活動

■設立年月日
2007年4月2日

■資本金
300万円(2013年3月現在)

■決算期
3月

■主要取引先銀行
三菱東京UFJ銀行　国立支店
三井住友銀行　国立支店

■年商
116,119,002円
(2011年4月～2012年3月31日)

■これまでの主要取引先
三菱東京UFJ銀行、東京海上日動火災保険株式会社、りそな銀行、株式会社電通、
アイシン高丘株式会社、大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ株式会社、
新日本有限責任監査法人、公益財団法人 東京財団、オージー技研株式会社　など多数

■提携先
Global Economic Symposium(GES(ドイツ))
International Relations and Security Network(ISN(スイス))

■お問い合せ先
TEL:042-537-7750 / FAX:042-537-7751
E-mail:social@haradatakeo.com
WEB:http://www.haradatakeo.com

目次

序～ご挨拶～ …… 1
(RIJAG代表理事/IISIA代表(CEO)　原田武夫)
運営団体(主催) …… 2
運営団体(共催) …… 3

1.次世代の若者を育てる社会貢献事業 …… 6
・RIJAG・IISIAと社会貢献事業 …… 7
・社会貢献事業を支える仕組み …… 8
・会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」とは …… 8
・賛助会員制度「立柱創史会」とは …… 8
・「三方善し」の実現(社会貢献事業を支える仕組み) …… 9
・循環型社会の実現のために …… 10
・「グローバル人財プレップ・スクール」の全国展開を始動 …… 11
現地団体のご協力 …… 11
・2012年度の展開 …… 11
ICTを使った学生たちの交流 …… 12
九州経済白書に掲載されました …… 12
名古屋・福岡におけるメディアの反響 …… 12
各地関係者からのコメント …… 12
・会員様限定 合同懇親会のご報告 …… 13

2.グローバル人財プレップ・スクール …… 14
・「グローバル人財プレップ・スクール」の意義と目的 …… 15
・2012年度の基本方針 …… 16
・「グローバル人財プレップ・スクール」で伝えたこと …… 17
・「グローバル人財プレップ・スクール」の教育効果 …… 18
・「グローバル人財プレップ・スクール」SNSについて …… 19
・初回受講生の分布 …… 20
・課題図書一覧(東京) …… 21
・講義概要(東京) …… 22
・第1講～第20講、特別講義(東京) …… 23
・課題図書一覧(名古屋・福岡) …… 35
・講義概要(名古屋・福岡) …… 36
・プレ・イヴェント、第1講～第6講(名古屋・福岡) …… 37
・サッカー合宿の開催 …… 40
・これまでの修了生たちの主な進路 …… 41

目次

3. グローバル人財スカラーシップ …… 42
・「グローバル人財スカラーシップ」の意義と目的 …… 43
・2012年度「グローバル人財スカラーシップ」概要 …… 44
・応募者一覧 …… 45
・2012年度受給者およびコメント …… 46

4. 社会貢献事業に対する声 …… 48
・修了生インタビュー …… 49

5. 2013年度におけるプログラム予定 …… 56
・2013年度「グローバル人財プレップ・スクール」 …… 57
2013年度の基本方針 …… 57
東京におけるプログラム（予定） …… 57

6. 賛同金のご報告とご支援のお願い …… 60
・2012年度賛同金のご報告 …… 61
・助成金によるご支援のお願い（企業様並びに助成財団様） …… 61
・会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」 …… 62
・賛助会員制度「立柱創史会」 …… 63

1.次世代の若者を育てる社会貢献事業

RIJAG・IISIAと社会貢献事業

次世代を担う若者を対象とした「教育」「人財育成」を目的とし、私たちは二つの社会貢献事業を実施してきました。一つが将来の日本を支える大学生・大学院生を対象に無償で“情報リテラシー”教育を行う「グローバル人財プレップ・スクール」。そしてもう一つが同じく未来を担うべき大学生・大学院生を対象に学資サポートを行う奨学金制度「グローバル人財スカラーシップ」です。

2008年度よりIISIAが実施してきました「IISIAプレップ・スクール」、「IISIAスカラーシップ」を2012年度よりRIJAGが主導する形でIISIAと共催。公益性を高め名称を変更すると共に、「グローバル人財プレップ・スクール」を全国展開するなど、IISIAと協力しながらより充実した社会貢献事業に発展させてきました。

RIJAG

「グローバル人財プレップ・スクール」の運営

- 受講学生の募集、選考（課題作成、採点）
- 講義プログラム（シラバス）作成、課題図書の選定
- 実施会場の確保、各地関係者への案内
- 講義実施
- 企業経営者、中央官庁幹部等を外部講師に招き特別講義実施
- ICT 運営
- サッカー合宿、懇親会実施
- 受験生評価および優秀者への修了証発行

「グローバル人財スカラーシップ」の運営

- 奨学金申込者募集、選考（課題作成、採点、面接）
- 奨学金受給者の研究発表、実施
  （「原田武夫ゲマインシャフト」ゴールド会員懇親会にて実施）
- 奨学金受給者の報告

助成金窓口

IISIA

「原田武夫ゲマインシャフト」
「立柱創史会」
会員様からのご支援窓口

社会貢献事業を支える仕組み

RIJAGではミッションおよび若者の育成にご賛同頂きました企業様並びに助成財団様からの助成金という形でご支援をお願いしています。また、IISIAは二つの会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」および賛助会員制度「立柱創史会」を通じて、多くの企業経営者様や個人のお客様からもご支援を頂いております。

会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」とは

IISIAの社会貢献事業を支える会員制サーヴィス

原田武夫ゲマインシャフト

“情報リテラシー”を自ら学びたいとお考えの個人（中小企業主を含む）のお客様を対象としたIISIAによる会員制サーヴィスです。

IISIAがリリースする教材やセミナーなどを特別価格にてお求めいただける他、月刊会報誌の配布や会員専用SNSなど様々な特典をご提供しています。

同時に、会員の皆様から頂戴いたしました会費から生じる利益の約50%を明日の日本を担う学生たちに対する社会貢献事業に役立たせて頂いております。

賛助会員制度「立柱創史会」とは

立柱創史会

IISIA代表・原田武夫の「志」およびIISIAがこれから行う「行動」に関し、その趣旨に賛同され、ご支援くださる方々をお招きする場として運営いたしております賛助会員制度です。

「国民レヴェルでの“情報リテラシー”教育」、「グローバル人財教育事業」並びに「我が国のエネルギー・シフトへの貢献」の三つの事業に対して、IISIAが事業として取り組む内容とその前提である志について充分ご理解され、共に未来を創り上げる気概を真に持ち合わせていらっしゃる方より、会費という形でご支援を賜っております。

「三方善し」の実現（社会貢献事業を支える仕組み）

私たちが社会貢献事業を実施するにあたり根底にある考えとして「三方善し」があります。

まずご賛同頂いた皆様からのご支援を通じて、RIJAG/IISIAは学生に対して無償で教育を行うことが可能となり、学生たちは“情報リテラシー”を身につけグローバル人財となるための教育を無償で受けることが出来ます。

そしてこれら有意な学生たちが社会へと羽ばたくことで我が国、ひいては国際社会全体の底上げに繋がっていきます。

さらに次世代の活躍による経済的な繁栄の中でより多くの企業様並びに助成財団様の活動が潤滑になり、さらに多くの方からのご賛同を頂くことで社会貢献事業の輪がより大きく広がっていく。これが私たちのアイデアです。

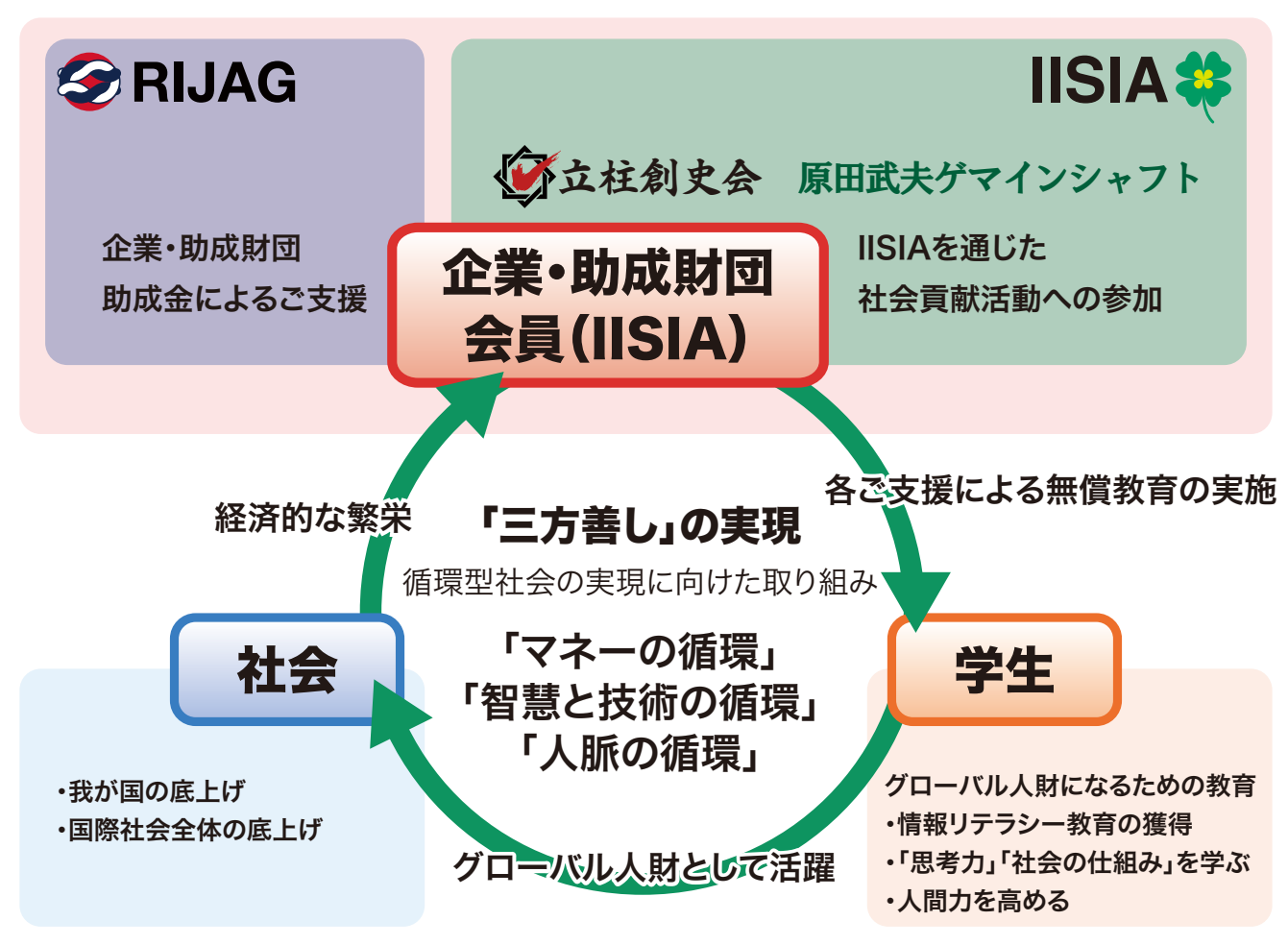
ご賛同頂ける皆様と学生、社会にとってプラスの循環を生む、正に江戸時代の近江商人が至高のビジネスモデルとした「三方善し」の実現です。

循環型社会の実現のために

今、金融資本主義をベースとした国際社会の在り方が大きく変わりつつあります。これに対して全く新しいシステムを提示すべく、私たち日本人がとるべき戦略、それが社会における三つの循環の構築です。

一つは富める世代から将来を担う若者にお金を廻す「マネーの循環」、次に次世代を支える者たちにじっくりとその智慧と技術を教え込む「智慧と技術の循環」、最後に若者の声を聞き、その望みを叶えるために助けてくれる誰かを紹介する「人脈の循環」です。

そして循環型社会を目指すための新しい取り組みがRIJAGおよびIISIAの事業モデルであり、その一つが社会貢献事業なのです。



「グローバル人財プレップ・スクール」の全国展開を始動

有意な青少年の育成、特に“情報リテラシー”を持ったグローバル人財の育成が我が国全体の課題であることは言うまでもありません。モノづくりの生産拠点が数多く所在し、少子高齢化のあおりを受ける中で、国内に留まらず、広く海外まで視野に入れた転換を迫られている地域経済にこそグローバル人財の育成は急務であるとRIJAGといたしましては考えております。

このような状況に鑑み、2012年度より「グローバル人財プレップ・スクール」の全国展開に向けた取り組みをスタートいたしました。具体的には東京での開講に加え、モノづくりの拠点である名古屋、アジアに向けたゲートウェイである福岡で10月より6ヶ月間の講義を実施いたしました。また仙台においても東北大学のご協力のもと、同大学にて「グローバル人財プレップ・スクール」の特別イヴェントを開催いたしました。

現地団体のご協力

福岡において財団法人九州経済調査協会によるご配慮のもと、会場としてビズ・コミュニケーション・ライブラリー（BIZCOLI）を利用させて頂くなど、各地に所在する諸団体・組織の様々なご支援を賜り実施することが出来ました。

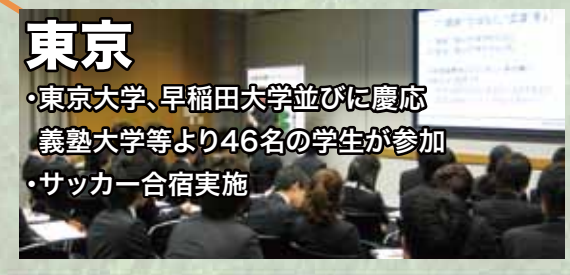
2012年度の展開

名古屋
- 10月より本講義を開講
- 名古屋大学、名古屋市立大学等から13名の大学生・大学院生が参加

北海道
- 2013年度地元NPO法人と協力し、集中講座の開催を検討

仙台
- 10月25日東北大学内にて「プロデューサー塾」講師
- 12月13日に特別イヴェントを東北大学にて実施

福岡
- 10月より本講義を開講
  九州大学、福岡大学等から20名の学生・大学院生が参加
- 「BIZCOLI」で実施



東京
- 東京大学、早稲田大学並びに慶応義塾大学等より46名の学生が参加
- サッカー合宿実施

ICTを使った学生たちの交流

専用SNSによる地域をまたいだ学生間での交流や、Ustreamを利用して東京における講義に名古屋や福岡の学生が遠隔地から参加するなど、インターネット上での地域間交流を行うことで学生間のネットワーク構築を促しました。

九州経済白書に掲載されました

「グローバル人財プレップ・スクール」福岡の記事が財団法人 九州経済調査協会の発行する「九州経済白書」に掲載されました。(2013年2月15日発行)

グローバル人材の地産地消に向けて

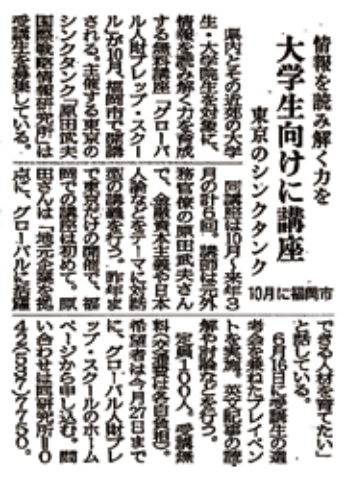
九州において重要なのは、グローバル人材の地産地消である。「地産」、すなわち九州の人材を、九州において育成する事業が始まっている。(一社)日本グローバル化研究機構(東京都)が米原田武夫国際戦略情報研究所(東京都)と共催で開く「グローバル人財プレップ・スクール」は、20名程度の九州の大学生、大学院生を対象に、無償のスクールを福岡市内で開講。情報リテラシーを中心とした社会や企業が必要とする能力を備えるためのトレーニングの場を提供している。2012年度は、同年10月～翌年3月にかけて6回の講義を開催し、今後の社会情勢を見極めるスキルを磨くためのカリキュラムが組まれている。実施主体は東京の組織であるものの、九州の地で、九州で活躍するグローバル人材を育てるという、人材の地産地消を進めている。

一方、「地消」といえる地場企業におけるグローバル人材の受入については、地場企業でも留学生の採用枠がしだいに増えている。リーマンショックや3.11東日本大震災などの発生で不安定な景気動向のなか、近年は約500人の就職で頭打ちとなっているが、中小企業の間での留学生の採用意欲は高まっており、今後は加速に転じるとみられる(図3-10)。

現在は、グローバル人材を留学生に依存しているが、今後は日本人グローバル人材の育成が急務となってこよう。前述の東京の機関による日本人グローバル人材の「地産」の取組をもっと広めていく必要がある。

グローバル人財プレップ・スクール「グローバル人財プレップ・スクール」の講義風景
(資料:(一社)日本グローバル化研究機構)

名古屋・福岡におけるメディアの反響


情報を読み解く力を
大学生向けに講座
東京のシンクタンク
10月に福岡市

県内とその近郊の大学生・大学院生を対象に、情報を読み解く力を養成する無料講座「グローバル人財プレップ・スクール」が10月、福岡市で開講される。主催する東京のシンクタンク「原田武夫国際戦略情報研究所」は受講生を募集している。

同講座は10月～来年3月の計5回。講師は元外務官僚の原田武夫さんで、金融資本主義や日本人論などをテーマに対話形式で講義を行う。昨年度の講義を行う。昨年度で参加者だけの開催で、福岡での講座は初めて。原田さんは「地元企業を担う若い人材に、グローバルに活躍できる人材を育てたい」と話している。

6月16日に学生の進学を祝ったプレイベントを実施。英文記事の理解や討論などを行う。定員100人。受講無料(交通費は各自負担)。希望者は今月27日までに、グローバル人財プレップ・スクールのホームページから申し込む。問い合わせは同研究所TEL 42-539-7760。

西日本新聞
(2012年4月24日付・朝刊)

広い視点で海外展望を
大学生対象にセミナー
名古屋

社団法人日本グローバル化研究機構と原田武夫国際戦略情報研究所が共催する大学生向け人材育成セミナーは、名古屋市内で開かれた。

セミナーは講師などのグローバル化に対応できる人材の育成を図るのが狙い。入学する学生対象と全国で初めてで、東海地区の学生ら約30人の大学生が参加した。

講師は元外交官で、国際戦略情報研究所の原田武夫代表取締役が務めた。原田代表は、中国経済は安泰と言われるが、中国でも人口減少のトレンドは揺らぐなく始まる」などと表明を挙げ、受講者に多角的な視点を持つよう促した。

また、「企業の海外戦略に何が求められているか」などと講師に質問する問い合わせ時間、国際戦略情報研究所TEL 043(637)7760。

岐阜新聞
(2012年6月29日付・朝刊)

各地関係者からのコメント

とても良いお話で、私自身、非常に勉強になりました。当会の若手にも聞かせたい内容でした。
(福岡プレ・イヴェントにご同席頂いた経済団体関係者様からのコメント)

人生において基本的な問題でありながら、多くの人が突き詰めて考えていない問いから始まるとても興味深い内容でした。
(名古屋プレ・イヴェントにご同席頂いた大学関係者様からのコメント)

会員様限定 合同懇親会のご報告

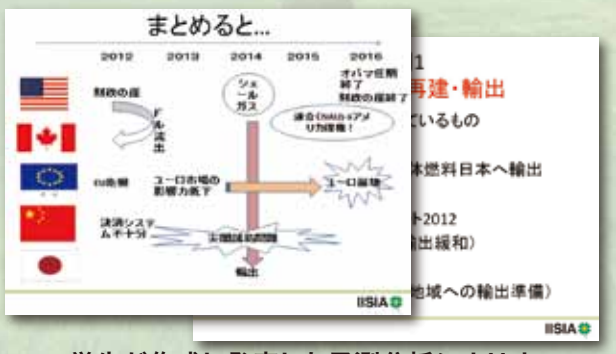
「グローバル人財プレップ・スクール」の受講生が、IISIAの会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」、賛助会員制度「立柱創史会」の両会員様に日頃の学習成果を発表する場として、また学生と会員の方々との間での「交流の場」を持つ目的で、2012年12月8日（土）に両会員様を招き合同懇親会を開催いたしました。

懇親会会場の様子

受講生を代表して2名の学生が「基軸通貨」をテーマとした予測分析シナリオを発表後、ご出席の会員様との質疑応答が交わされました。

また、担当者より2013年度の展望を発表、さらにRIJAG代表理事、IISIA代表・原田武夫による講演会を実施しました。

当日の参加者、また参加頂けなかった方も含め、両会員様からは総額61万円のご賛同金をお寄せ頂きました。この場を借りて衷心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



学生が作成し発表した予測分析シナリオ

会員から学生へのメッセージ

今、原田先生のもとで学んでいる内容を忘れないでください。皆さんはきっと今後、それぞれの持ち場のリーダーとして周りを引っ張っていく立場になる人だと思います。その時に今、学んでいることや色々な方に支えてもらったことを忘れず、今度はあなたたちが次の世代に伝えていって欲しいと思います。

参加した学生の声

会員の方々の中には普段お会いすることができないような方も多くいらっしゃいます。そのような方と直接その場で意見交換させて頂いたり、作成した中期予測分析シナリオについてご指摘を受けたりと本当に貴重な経験になりました。このような機会を今後も是非設けて頂きたいと思います。

2.グローバル人財プレップ・スクール

グローバル人財プレップ・スクール

「グローバル人財プレップ・スクール」の意義と目的

今、正に時代のキーワードである「グローバル化」。円高展開・少子高齢化が進む中、「グローバル人財」が日本中の企業から求められています。

「グローバル人財」の定義は様々です。私たちRIJAGおよびIISIAは“情報リテラシー”を修得することで、世界中のどこで富が湧き出しどこに向かって流れ込んでいるのかを先取りして察知し、その獲得に向けて具体的かつ戦略的な行動を取ることの出来る人財が「グローバル人財」であると定義しています。

「グローバル人財プレップ・スクール」では “公開情報から意味を読み解く力”、並びに“それを踏まえてこれからどうなっていくのかを見通す力＝シナリオ・プランニング能力”の双方を併せて磨く“情報リテラシー”教育を行います。またこれと併せ、「グローバル人財」として必要な金融・経済・政治・外交・マーケット・古今東西の歴史などについても集中的に学び、単なる詰め込みではなく、物事を深く分析し洞察する力を養います。

もっともそれだけでは不十分です。“情報リテラシー”を通じてあらかじめリスクを察知した場合、学んだ体系的な知識を自己のためではなく「全体」の利益を目的として活用し行動することが求められます。そのために「グローバル人財プレップ・スクール」は総合的な能力（「人間力」）も鍛えていきます。

このようにあらゆる側面から見て「明日」を担うにふさわしい
卓越した人財を持続可能な社会貢献事業の一環として育成していくこと。

――これが「グローバル人財プレップ・スクール」の目的なのです。

2012年度の基本方針

2007年に金融メルトダウンが始まって以来、日本、そして世界は揺れに揺れています。「何ヲモツノカ」「どうやって儲けるのか」という “覇術”が世間に溢れる今、「(自分ハ)何デアルノカ」「何のために生まれ、何を為すべきなのか」という問いに真正面から取り組み、自分なりの答えを出した上で己のためではなく世間一般のために奉仕すること。
———その意味での“王道”を体得した若者こそが求められていると私たちは考えます。

2012年度の「グローバル人財プレップ・スクール」ではこの“王道”を伝えることに専念いたしました。東京では前期、後期の区別なく1年を通じて学ぶカリキュラムに変更し、グローバル人財に求められる知識や考え方を体系的に教えました。

また円高・少子高齢化が進み、外から富を獲得することの出来る「グローバル人財」の育成は地方においてこそ、より求められています。このような状況を鑑み、私たちはモノづくりの拠点である「名古屋」、そしてアジアに向けたゲートウェイである「福岡」においてもこの「グローバル人財プレップ・スクール」を2012年度より開催しました。

講義にあたっては学生たちに「考えさせること」をより重視するスタイルへと転換し、最初から答えは示さずに、いわばオープン・クエスチョンを発することで自由闊達に学生たちに発言させた他、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションといった実践の場を設けることで本人たち自身が「気づき」を得るように導いていきました。

グローバル人財プレップ・スクール

「グローバル人財プレップ・スクール」で伝えたこと

目的・狙い

・グローバル人財として我が国を牽引するリーダーに必要な知識・体験を集中的に習得させる
・課題を通じて論理的に思考し、まとめ、発表する力を養う。またグループ・ワークにより意見をまとめ発表する力もつける
・“情報リテラシー”の基礎を習得させる
・未来を自身で見通す能力を磨き、予測分析シナリオを作り上げることが出来るようにする

講師・原田武夫の講義

RIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫が金融、歴史、外交からリーダーシップのあり方まで、将来グローバル人財となるため、また我が国を導いていくリーダーとなるために必要な内容を講義形式で学生たちに教えました。

独自の切り口で問題の核心に気付かせる活きた学問を毎回のテーマに沿って伝えると共に学生からの発言やディスカッションを促し、学生たちの主体的な参加を求め「気づき」を促しました。

課題図書の輪読

講義ごとにあらかじめ指定した複数の課題図書を各自が読み込んで講義に臨みました。

また、各グループで分担し、与えられた課題図書（日本語、英語）に対して要約および考察を発表しました。リーダーが知っておくべき知識を集中的に習得させると共に発表の機会を多く持つことでロジカルに考え話す力を鍛えました。

政策課題（東京のみ）

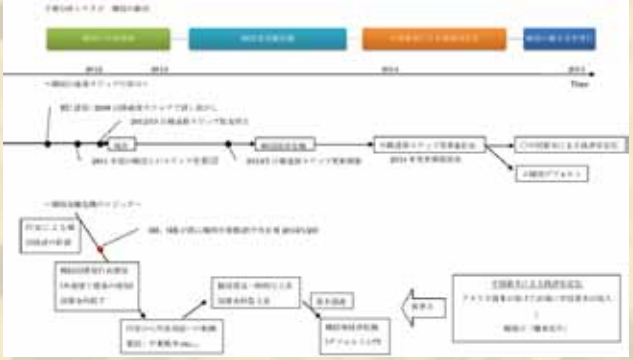
身近な問題点に対する解決策を「政策」として実現していくための論理や知識を教えました。その中で学生たちは他者に対して説明するために必須の論理の組立て方やプレゼンテーションの仕方を実践形式で学びました。後半は自分たちでテーマの選定まで行い、SNS上で議論を重ねながら資料を作成しました。

予測分析シナリオ作成（東京のみ）

予測分析シナリオは政治、マーケット、軍事、テクノロジー、そしてインテリジェンスまで様々な領域を横断的に分析し「これから」起こることの連鎖を予測し、立体的に描き出したシナリオです。

2012年度、初めての試みとして学生自身がこの予測分析シナリオ作成に取り組みました。

通貨やエネルギーなど学生自身が設定したテーマに限定し、これまで学んだ“情報リテラシー”を駆使してグループで協力して作成し発表を行いました。発表後に他グループと内容に対して議論を行った上で講師・原田武夫よりフィードバックを行いました。これらを通じてこれからについて自分たちで見通すための考え方を学びました。



学生の作成した「予測分析シナリオ」の例

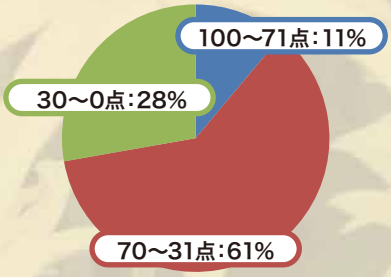
「グローバル人財プレップ・スクール」の教育効果

評価基準と学生への通知

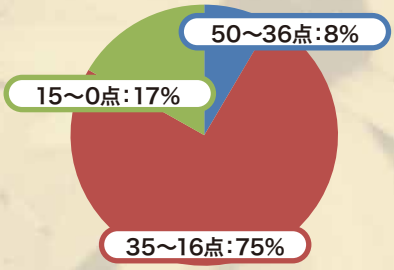
「グローバル人財プレップ・スクール」では教育効果を測るために評価基準を定め学生たちに通知しています。今年度も講義終了後に学生に対して各人の成績を開示し、各地受講者上位者10名には修了証および希望者に対する企業への推薦状を発行しました。

2013年度 評価結果

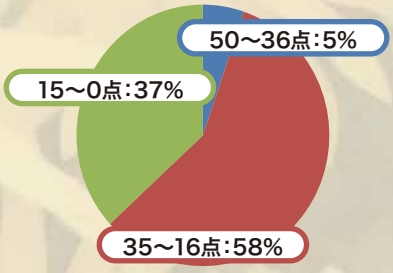
東京（18名：100点満点中）



名古屋（12名：50点満点中）



福岡（19名：50点満点中）



＜評価基準＞

1.講義における貢献度（発言内容の質、発言頻度）

—単なる質問や意見に留まらず、周りの学生に新しい論点や議論を進める意見を出せたか

—講義のテーマに対して周りの学生が理解を深めるきっかけとなる発言をしたか

2. SNS上での発言における貢献度(投稿内容、投稿回数)

—テーマ・課題に対する自身の考えを根拠と共に論理的に提示出来ているか

—個々の発言を取りまとめ必要に応じてSNS上の議論を正しい方向に誘導する発言をしたか

グローバル人財プレップ・スクール

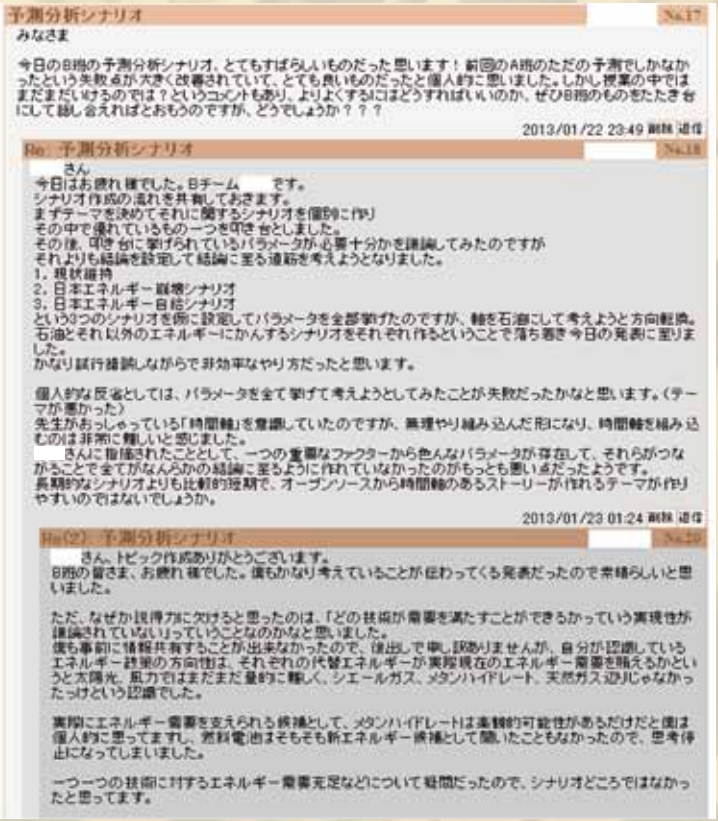
「グローバル人財プレップ・スクール」SNSについて

学生の相互学習の場として、また東京、名古屋、福岡各地の学生が議論を交わす場として利用しています。

- 予測分析シナリオ、政策課題、輪読に関するグループ内での議論を行い、それを他グループも含め閲覧、コメントが出来ます。
- グループ内での役割分担など、細かい作業内容の取り決めもSNS上で行い、効率的な意見のまとめ方を他グループでも見ることが出来ます。
- 東京と地方の学生同士のコミュニケーションの場としても活用されています。

「グローバル人財・プレップ・スクール」SNS

SNS上での議論



「自由討論の場」を利用した活発な意見交換

学生同士が自由に意見する「自由討論の場」では学生自身が議論したいテーマを提案しました。ここで提案された議題「インターネット選挙について」が、9月のサッカー合宿で議論されました。講義の内容について深く掘り下げようと学生同士が議論するなど自由で活発な意見交換がなされました。

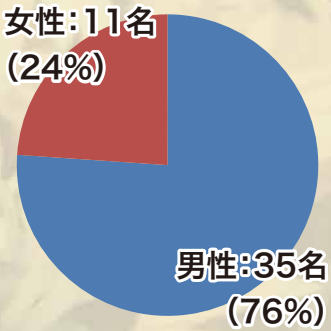
また、10月からは名古屋・福岡の学生も参加しました。福岡の学生たちが講義において白熱したとSNS上で共有すると、今度は名古屋の学生たちがSNS上で負けじと議論を展開するなど、互いに刺激し合い、切磋琢磨する様子が見られました。

初講受講生の分布

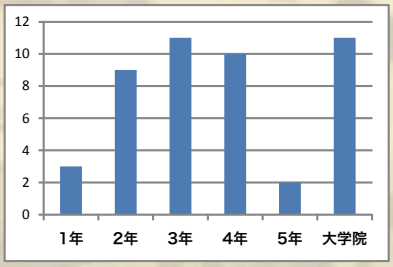
【東京】総受講者数:46名

慶応義塾大学	8名
早稲田大学	8名
東京大学	5名
一橋大学	3名
慶応義塾大学大学院	2名
中央大学	2名
上智大学	2名
横浜国立大学	2名
立教大学	2名
東京大学大学院	1名
一橋大学大学院	1名
東京工業大学大学院	1名
筑波大学大学院	1名
東京海洋大学大学院	1名
青山学院大学大学院	1名
北里大学	1名
日本大学	1名
法政大学	1名
東京外国語大学	1名
東京理科大学	1名
埼玉大学	1名

参加者の男女比



学年別の分布

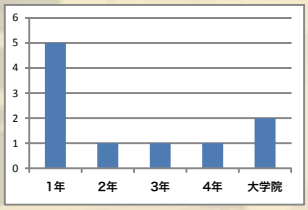


講義の様子

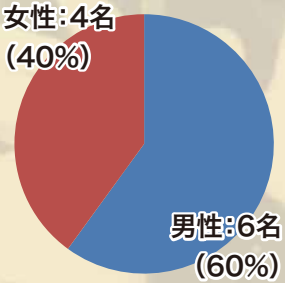
【名古屋】総受講者数:10名

名古屋大学	3名
愛知淑徳大学	3名
名古屋市立大学	2名
南山大学	1名
愛知大学	1名

学年別の分布



参加者の男女比

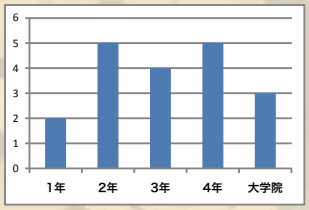


講義の様子

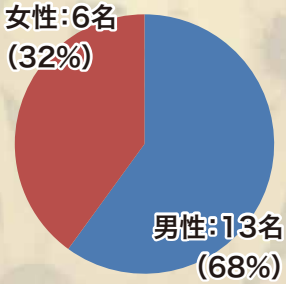
【福岡】総受講者数:19名

福岡大学	9名
九州大学	4名
九州大学大学院	2名
西南学院大学	2名
福岡大学大学院	1名
立命館アジア太平洋大学	1名

学年別の分布



参加者の男女比



講義の様子

グローバル人財プレップ・スクール(東京)

課題図書一覧(東京)

第1講:神渡 良平『安岡正篤　人生を拓く』(講談社プラスアルファ新書)
第3講:出光興産株式会社店主室編『ペルシャ湾上の日章丸』(出光興産株式会社)
高倉秀二『士魂商才　実録・出光佐三』(ダイヤモンド社)
第4講:橘川武郎『日本電力業の発展と松永安左エ門』(名古屋大学出版会)
William J. Hausman, “Global Electrification”(Cambridge University Press)
第5講:工藤美代子『悪名の棺　笹川良一伝』(幻冬舎)
高杉良『小説　日本興業銀行　第一部〜第五部』(講談社)
第6講:矢野竜渓『安田善次郎伝』(中公文庫)
由井常彦編『日本財閥経営史　安田財閥』(日本経済新聞社)
第7講:Loch K. Jonson (edited), “Handbook of Intelligence Studies”(Routledge)
北岡元『インテリジェンスの歴史』(慶応義塾大学出版会)
野田敬生『諜報機関に騙されるな！』(ちくま新書)
『アメリカ情報機関の全貌』(軍事研究2006年7月号別冊)Japan Military Review
第8講:ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器』(誠信書房)
アンソニー・プラトカニス他『プロパガンダ』(誠信書房)
山本武利『占領期メディア分析』(法政大学出版局)
今西光男『占領期の朝日新聞と戦争責任』(朝日新聞社)
第9講:Stephen Birmingham, “The Grandees: America's Sephardic Elite”(Syracuse University Press)
Shelley A. Stark, “Hidden Treuhand”(Universal Publishers)
浅海信行『世界不況を乗り越える韓国・台湾・中国企業』(勁草書房)
第10講:沼上幹『経営戦略の思考法』(日本経済新聞出版社)
浜田和幸『知的未来学入門』(新潮選書)
Peter Schwartz, “The Art of the Long View”(Currency Doubleday)
第11講:西村行功『シナリオ・シンキング』(ダイヤモンド社)
ヴァン・デル・ハイデン『シナリオ・プランニング』(ダイヤモンド社)
ポール・シューメーカー『ウォートン流シナリオ・プランニング』(翔泳社)
第12講:ロン・チャーナウ『モルガン家　上・下』(日経ビジネス人文庫)
デイヴィッド・ロックフェラー『ロックフェラー回顧録』(新潮社)
第13講:Klaus W. Bender, “Moneymakers”(Wiley-VCH)
水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』(日本経済新聞出版社)
マイケル・ルイス『世紀の空売り』(文藝春秋)
第14講:立脇和夫『外国銀行と日本』(蒼天社出版)
三谷太一郎『ウォール・ストリートと極東』(東京大学出版会)
岩武照彦『近代中国通貨統一史』(みすず書房)
エドワード・ミラー『日本経済を殲滅せよ』(新潮社)
中川靖造『海軍技術研究所』(日本経済新聞社)
伊集院丈『雲を掴め』(日本経済新聞出版社)
第15講:湯浅赳男『ユダヤ民族経済史』(洋泉社)
臼杵陽『イスラエル』(岩波新書)
丸山直起『太平洋戦争と上海のユダヤ難民』(法政大学出版局)
Robin Shepherd, “A State Beyond the Pale”(Phoenix)
第16講:中沢新一『精霊の王』(講談社)
吉田敦彦『日本神話のなりたち』(青土社)
千田稔『伊勢神宮　東アジアのアマテラス』(中公新書)
鈴木秀夫『超越者と風土』(原書房)
第17講:森孝行『宗教からよむ「アメリカ」』(講談社選書メチエ)
久保文明編『アメリカ政治を支えるもの』(財団法人日本国際問題研究所)
渡辺将人『評伝バラク・オバマ』集英社
ヒラリー・ロダム・クリントン『リビング・ヒストリー　ヒラリー・ロダム・クリントン自伝』(早川書房)
第18講:なし(グローバル・エコノミック・シンポジウム(GES)2012　年次総会で配布された資料をテキストとして使用)
第19講:ジョセフ・ジャウォースキー『シンクロニシティ』(英治出版)
F・デヴィッド・ピート『シンクロニシティ』(朝日出版社)
アーヴィン・ラズロ『コスモス』(講談社)

(※第2講、第20講および特別講義は課題図書はありません)

講義概要(東京)

	日時	テーマ
第1講 (開講式)	4月24日(火)　19:00〜20:30	イントロダクション「なぜ今、我が国はグローバル人財を求めているのか?」 (六本木アカデミーヒルズ49　コラボレーションルーム1+2　にて実施)
第2講	5月8日(火)　19:00〜21:00	情報リテラシーとは何か(総論)
第3講	5月22日(火)　19:00〜21:00	巨人たちの足跡(その1):出光佐三
第4講	6月5日(火)　19:00〜21:00	巨人たちの足跡(その2):松永安佐エ門
特別講義	6月12日(火)　19:00〜20:30 講師:藤田義嗣氏 (日本ソフト開発株式会社代表取締役社長)	志す道に未来がある (東京ステーションコンファレンス　503Aにて実施)
第5講	6月19日(火)　19:00〜21:00	巨人たちの足跡(その3):笹川 良一・中山 素平
第6講	7月10日(火)　19:00〜21:00	巨人たちの足跡(その4):安田善次郎
第7講	7月24日(火)　19:00〜21:00	インテリジェンスの世界
第8講	8月7日(火)　19:00〜21:00	メディアとは何か?
第9講	10月2日(火)　19:00〜21:00	グローバル・マクロとは何か?
第10講	11月6日(火)　19:00〜21:00	シナリオ・プランニングの世界(その1)
特別講義	11月13日(火)　19:00〜20:30 講師:茶谷　栄治氏 (財務省　大臣官房　秘書課長)	国家の財政を考える (東京ステーションコンファレンス　605Aにて実施)
第11講	11月27日(火)　19:00〜21:00	シナリオ・プランニングの世界(その2)
第12講	12月11日(火)　19:00〜21:00	金融資本主義の根幹に迫る(その1)
第13講	12月25日(火)　19:00〜21:00	金融資本主義の根幹に迫る(その2)
第14講	2013年1月8日(火)　19:00〜21:00	日本資本主義の歴史、そして今
第15講	2013年1月22日(火)　19:00〜21:00	ユダヤの歴史を知る　〜Global Liberal Arts〜
第16講	2013年2月5日(火)　19:00〜21:00	私たち日本人とは何者なのか　〜Global Liberal Arts〜
第17講	2013年2月12日(火)　19:00〜21:00	アメリカとは一体何なのか
第18講	2013年2月19日(火)　19:00〜21:00	グローバル・アジェンダの"今"を学ぶ
第19講	2013年3月5日(火)　19:00〜21:00	リーダーシップとシンクロニシティ
第20講	2013年3月19日(火)　19:00〜21:00	君たちはどう生きるべきなのか

※講師は特別講義を除き全てRIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫
※会場は第1講、特別講義を除き全てIISIAオフィス・セミナールームにて開催

グローバル人財プレップ・スクール(東京)

第1講　なぜ今、我が国はグローバル人財を求めているのか?

■日時:4月24日(火)19:00〜20:30　(46名参加)
■場所:六本木アカデミーヒルズ49コラボレーションルーム1+2
■課題図書:
神渡 良平『安岡正篤　人生を拓く』(講談社プラスアルファ新書)

講義内容

・「日本経済、世界経済、日本の政治、グローバル・ガヴァナンスについて、これからどうなると思うか」についてグループに分かれ、参加学生たちがディスカッション・発表
・講師(RIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫)より以下を説明
　—規律、礼節を徹底すること
　—“覇術”=自らが「何ヲモツノカ」を学ぶのでなく、“王道”=自らが「何デアルノカ」という問いに取り組むことが極めて重要であること
　—世界のどこにいても風《マネーの流れ》がどこに向かっているかを感じ取り行動に移せる能力であり、その風を掴むためのスキルとして“情報リテラシー”を磨くべきこと
・講義後、読書課題および英文課題による選考を実施し受講者数を30名に絞り込み

第2講　情報リテラシーとは何か(総論)

■日時:5月8日(火)19:00〜21:00　(26名参加)
■課題図書:なし

講義内容

・これからの一年間で何を学びたいかを一人ずつ学生から発表
・ある現実を変えるためにはそれを徹底的に知る必要があり、そのために“情報リテラシー”を磨く必要がある
・「high contextな社会」と「low contextな社会」について

第3講からの政策課題について

・担当グループは身近な問題点に対する解決策を調査し政策提言にまとめる
・講義では政策提言を他グループに向けてプレゼンテーション、議論を行い理解を深める
・論点を明確にし、過去や外国の事例を探る調査方法や議論を促しながらも主張を通す方法も学ぶ

第3講　巨人たちの足跡（その1）：出光佐三

■日時：5月22日（火）19:00～21:00　（22名参加）
■課題図書：
出光興産株式会社店主室編『ペルシャ湾上の日章丸』（出光興産株式会社）
高倉秀二『士魂商才　実録・出光佐三』（ダイヤモンド社）

講義内容

・書籍の輪読を通じて偉人の人生を振り返るなかで学ぶ“情報リテラシー”の真髄
・今の団塊世代が経験した、閉鎖経済ではない世界中の大きなお金の動き
（1970年代から現代に至るまでの各国の変遷について）

政策課題（担当：グループA）

テーマ：尖閣諸島問題
政策提言：「尖閣諸島問題の根底には発見された石油資源の争奪がある」とし
「中国との共同開発事業推進」を施策提示

第4講　巨人たちの足跡（その2）：松永安佐エ門

■日時：6月5日（火）19:00～21:00　（20名参加）
■課題図書：
橘川武郎『日本電力業の発展と松永安左エ門』（名古屋大学出版会）
William J. Hausman, “Global Electrification”(Cambridge University Press)

講義内容

・優れたリーダーが実践する、生活を整えることの意味と効果について
・過去の偉人の実績から読み解く、諸外国との関係構築の方法

政策課題（担当：グループB）

テーマ：イランの核開発問題と日本の経済制裁
政策提言：「日本はイランに対して原子力の平和的利用の観点から経済制裁をするべき」とし、
「核非保有国を含めて核廃絶を目指す国際組織を作るべき」と発表

グローバル人財プレップ・スクール(東京)

特別講義　日本ソフト開発株式会社 代表取締役社長 藤田 義嗣氏

■日時:6月12日(火)19:00～20:30
■場所:東京ステーションコンファレンス 503A　(24名参加)
■テーマ:志す道に未来がある

■本講義の目的
　都内在学の学生たちが普段接することのない、我が国有数の地方経済界の最前線で活躍するリーダーの方を講師に招き、質問する機会を持たせることで学生たちのやる気を喚起すること

ご講義頂いた内容(ポイント)

・イノベーションを生み出すリーダーになるために人間力の基本を身に付けることが重要
　(人間力の基本:素直であり感謝の心を持つ、礼節に優れる、人間として裏表がない)
・日本に蔓延している四つの病気
　(「先送り中毒」「リスク過敏性」「従来型依存症」「茹でガエル現象」)
・環境問題と日本が目指すべき科学技術の形について

第5講　巨人たちの足跡（その3）：笹川 良一・中山 素平

■日時：6月19日(火)19:00～21:00　（20名参加）
■課題図書：
工藤美代子『悪名の棺　笹川良一伝』（幻冬舎）
高杉良『小説　日本興業銀行　第一部～第五部』（講談社）

講義内容

・現代のマネタリズムおよびエマージング・マーケットに対する米国の戦略と問題点
・高度成長期における偉人の活躍から学ぶべきエッセンス

政策課題（担当：グループC）

テーマ：生活保護問題
政策提言：不正受給を減らす「ケースワーカー改革と不正受給者対策」、
自立支援施策として「ワークフェアの導入と生活保護の受給制限」を提示

第6講　巨人たちの足跡（その4）：安田善次郎

■日時：7月10日(火)19:00～21:00　（21名参加）
■課題図書：
矢野竜渓『安田善次郎伝』（中公文庫）
由井常彦『日本財閥経営史　安田財閥』（日本経済新聞社）

講義内容

・世界史を振り返る上で重要な要素
・歴史に名を残す創業者の持つ風を読み決断する力
（福岡、名古屋の受講生に向けても講義の様子をUstream上で同時放送しコメントでの参加を受け付けた）

政策課題（担当：グループD）

テーマ：日本の地方自治、その理想的な姿は？
政策提言：「道州制と都道府県制の混合による地方自治」を理想的な姿として発表

グローバル人財プレップ・スクール(東京)

第7講　インテリジェンスの世界

■日時:7月24日(火)19:00〜21:00　(18名参加)
■課題図書:
Loch K. Jonson (edited), “Handbook of Intelligence Studies”(Routledge)
北岡元『インテリジェンスの歴史』(慶応義塾大学出版会)
野田敬生『諜報機関に騙されるな!』(ちくま新書)
『アメリカ情報機関の全貌』(軍事研究2006年7月号別冊)Japan Military Review

講義内容

・インテリジェンス機関の役割、それが欧米社会に組み込まれていること
・“情報リテラシー”の根本である「気付きを得ること」、「定点観測を通じて物事が生じる前に動く先行指標をつかむこと」の重要性

政策課題(担当:グループE)

テーマ:若年者非雇用問題
政策提言:根底にある問題として「就業観の育成が遅いこと」を挙げ、ドイツの教育制度を参考とした早期の就労経験によるキャリア形成システムを提案

第8講　メディアとは何か?

■日時:8月7日(火)19:00〜21:00　(17名参加)
■課題図書:
ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器』(誠信書房)
アンソニー・プラトカニス他『プロパガンダ』(誠信書房)
山本武利『占領期メディア分析』(法政大学出版局)
今西光男『占領期の朝日新聞と戦争責任』(朝日新聞社)

講義内容

・世界史を振り返る上で重要な要素
・歴史に名を残す創業者の持つ風を読み決断する力
(福岡、名古屋の受講生に向けても講義の様子をUstream上で同時放送しコメントでの参加を受け付けた)

政策課題(担当:グループA)

テーマ:教育機関において英語のみを学ぶべきか否か
政策提言:読み書きなどの手段言語と、相手との対話を行うための交流言語に分けて考察を展開し、「大学入学までは英語のみを学ぶべき」と結論

第9講　グローバル・マクロとは何か？

■日時：10月2日(火)19:00～21:00　（19名参加）
■課題図書：
Stephen Birmingham, “The Grandees. America’s Sephardic Elite”(Syracuse University Press)
Shelley A. Stark, “Hidden Treuhand”(Universal Publishers)
浅海信行『世界不況を乗り越える韓国・台湾・中国企業』（勁草書房）

講義内容

・トロイハントやノーブル・ライ、グローバル・マクロに深く関わるユダヤ人など一般には知られていない世界がどのように構成されているか
・予測分析シナリオ作成時の判断基準としてロジック・ツリーの考え方
※第9講は予測分析シナリオの詳細説明を行い、政策課題は実施せず

第10講　シナリオ・プランニングの世界（その1）

■日時：11月6日(火)19:00～21:00　（16名参加）
■課題図書：
沼上幹『経営戦略の思考法』（日本経済新聞出版社）
浜田和幸『知的未来学入門』（新潮選書）
Peter Schwartz, “The Art of the Long View”(Currency Doubleday)

講義内容

・シナリオ・プランニングの意義と考え方、価値判断について
・イノヴェーションを起こす際に重要となるSTEM（science, technology, engineering, and mathematics）について

政策課題（担当：グループB）

テーマ：冤罪（学生たち自身がテーマを設定）
政策提言：冤罪を防ぐ解決法として「冤罪に対する刑事罰の検討および教育の徹底」
「被告人取り調べ時の同席者の認定」「検察側証拠の裁判所への提出義務の法整備」を提案

グローバル人財プレップ・スクール(東京)

特別講義　財務省 大臣官房 秘書課長 茶谷栄治氏

■日時:11月13日(火)19:00～20:30
■東京ステーションコンファレンス 605A　(24名参加)
■テーマ:国家の財政を考える

■本講義の目的
　我が国の金融財政政策を担う財務省幹部の方を講師に招き、我が国行政の最前線に触れる機会を持たせることで「公とは何か?」について学生たちに考えさせる

ご講義頂いた内容(ポイント)

・国家財政という観点から我が国の抱えている課題
　—我が国における莫大な金額の公債に対し、長期金利の上昇が与える影響、財政の脆弱さ
　—なぜ増税が必要か、財政健全化に向けた施策
　—人口ピラミッドの変化から見る医療費負担増加の危険性
・「桁の感覚」を大事にすることが我が国の財政について考える際には必須
・世間で謳われているのは問題の一部であり、幅広い視点を持ってものごとを見、自分の頭で考えるべきである

第11講　シナリオ・プランニングの世界（その2）

■日時：11月27日(火)19:00～21:00　（19名参加）
■課題図書：
西村行功『シナリオ・シンキング』（ダイヤモンド社）
ヴァン・デル・ハイデン『シナリオ・プランニング』（ダイヤモンド社）
ポール・シューメーカー『ウォートン流シナリオ・プランニング』（翔泳社）

講義内容

・企業における戦略と予測分析シナリオの関係について
・IISIAの予測分析シナリオと他の予測分析手法の違いについて

政策課題（担当：グループC）

テーマ：日本はTPPに参加すべきか否か（学生たち自身がテーマを設定）
政策提言：我が国の経済成長を促進させる推進力であること、TPPが外交戦略の一つであることから「日本はTPPに参加すべきである」と発表

第12講　金融資本主義の根幹に迫る（その1）

■日時：12月10日(火)19:00～21:00　（19名参加）
■課題図書：
ロン・チャーナウ『モルガン家　上・下』（日経ビジネス人文庫）
デイヴィッド・ロックフェラー『ロックフェラー回顧録』（新潮社）

講義内容

・予測分析シナリオのテーマ選定と組み立て方について
・欧米の代表的な財閥の日本企業との関わり、欧米財閥の考え方と狙い

政策課題（担当：グループD）

テーマ：我が国の農業の活性化（学生たち自身がテーマを設定）
政策提言：農業の活性化を図る解決策として「放射能汚染の情報開示法、農協の事業機関化等を通じた、農業の国際化の促進」を発表

グローバル人財プレップ・スクール(東京)

第13講　金融資本主義の根幹に迫る(その2)

■日時:12月25日(火)19:00〜21:00　(18名参加)
■課題図書:
Klaus W. Bender, “Moneymakers” (Wiley-VCH)
水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』(日本経済新聞出版社)
マイケル・ルイス『世紀の空売り』(文藝春秋)

講義内容

・インテリジェンス機関の役割、それが欧米社会に組み込まれていること
・“情報リテラシー”の根本である「気付きを得ること」、「定点観測を通じて物事が生じる前に動く先行指標をつかむこと」の重要性

予測分析シナリオ(担当:グループE)

テーマ:「BRICs銀行はブレトン・ウッズ体制と比較しどのような規模になるか」
発表内容:中国とアメリカの関係による「国際金融秩序の中心となる金融機関」への発展または「マイナー・チェンジしたブレトン・ウッズ体制サポート役」になると分析

第14講　日本資本主義の歴史、そして今

■日時:2013年1月8日(火)19:00〜21:00　(18名参加)
■課題図書:
立脇和夫『外国銀行と日本』(蒼天社出版)
三谷太一郎『ウォール・ストリートと極東』(東京大学出版会)
岩武照彦『近代中国通貨統一史』(みすず書房)
エドワード・ミラー『日本経済を殲滅せよ』(新潮社)
中川靖造『海軍技術研究所』(日本経済新聞社)
伊集院丈『雲を掴め』(日本経済新聞出版社)

講義内容

・日米通商史から追う研究者・技術者の技術漏洩防止の歴史
・TPPを例にした欧米の外交戦略

予測分析シナリオ(担当:グループA)

テーマ:「為替の今後」
発表内容:アメリカにおける「財政の崖」や日銀総裁の交代をパラメータとし、規制の緩和、インフレ・ターゲットやREIT買いを受け円安・ドル高になると分析

第15講　ユダヤの歴史を知る　～Global Liberal Arts～

■日時：2013年1月22日(火)19:00～21:00　（17名参加）
■課題図書：
湯浅赳男『ユダヤ民族経済史』（洋泉社）
臼杵陽『イスラエル』（岩波新書）
丸山直起『太平洋戦争と上海のユダヤ難民』（法政大学出版局）
Robin Shepherd, “A State Beyond the Pale”(Phoenix)

講義内容

・流動性の罠と財政政策、通貨政策およびポリシー・ミックスについて
・イスラエルの成り立ちとユダヤ人の歴史
・現代の金融システムの構築者と同システムのこれから

予測分析シナリオ（担当：グループB）

テーマ：「2023年　日本のエネルギーの主役は何か？」
発表内容：中東戦争、領土問題、地球寒冷化、シェール・ガスの生産性技術の向上等をパラメータとし各パラメータによりエネルギーの主役を「原子力」「シェール・ガス」などとした複数の予測分析シナリオを発表

第16講　私たち日本人とは何者なのか　～Global Liberal Arts～

■日時：2013年2月5日(火)19:00～21:00　（16名参加）
■課題図書：
中沢新一『精霊の王』（講談社）
吉田敦彦『日本神話のなりたち』（青土社）
千田稔『伊勢神宮　東アジアのアマテラス』（中公新書）
鈴木秀夫『超越者と風土』（原書房）

講義内容

・神話および各地における宗教観を通じて探る日本人のルーツ
・日本古来の文化や思想

予測分析シナリオ（担当：グループC）

テーマ：「朝鮮半島の今後」
発表内容：北朝鮮勢の核実験に対する中国の厳格な経済制裁、韓国経済危機に対する中国資本による経済安定化を経て「朝鮮戦争終結と人民元を軸にした経済圏が構築される」と分析

グローバル人財プレップ・スクール(東京)

第17講　アメリカとは一体何なのか

■日時:2013年2月12日(火)19:00〜21:00　(16名参加)
■課題図書:
森孝行『宗教からよむ「アメリカ」』(講談社選書メチエ)
久保文明編『アメリカ政治を支えるもの』(財団法人日本国際問題研究所)
渡辺将人『評伝バラク・オバマ』集英社
ヒラリー・ロダム・クリントン『リビング・ヒストリー　ヒラリー・ロダム・クリントン自伝』(早川書房)

講義内容

・アメリカにおける宗教の意義および政治、社会保障等との関係
・自伝・評伝が書かれた狙いとアメリカのメディア戦略

予測分析シナリオ(担当:グループE)

テーマ:「ユーロ崩壊の予測分析シナリオ」
発表内容:イタリア総選挙、中東リスク、ドイツ選挙などをパラメータとし「EUの完全崩壊」「EUの部分的残存」「EUの復活と地中海吸収」の三つの予測分析シナリオを発表

第18講　グローバル・アジェンダの“今”を学ぶ

■日時:2013年2月19日(火)19:00〜21:00　(15名参加)
■課題図書:なし
「グローバル・エコノミック・シンポジウム(GES)2012」年次総会で配布された資料をテキストとして使用

講義内容

・欧米と日本のリーダーシップの違い、当事者意識を持ち考え続ける重要性
・中央銀行の役割、INCRA(国際的な非営利格付機構)が社会に浸透する条件などGESで議論されたテーマについて

予測分析シナリオ(担当:グループE)

テーマ:「人民元・国際化に対する攻防の予測分析シナリオ」
発表内容:中国の金保有や米国債、中東リスク、中国国内経済などをパラメータとし「中国人民銀行のロードマップに沿った展開」または「IMFの通貨バスケットへの編入」の二つの予測分析シナリオを発表

第19講　リーダーシップとシンクロニシティ

■日時：2013年3月5日(火) 19:00～21:00　（13名参加）
■課題図書：
ジョセフ・ジャウォースキー『シンクロニシティ』（英治出版）
F・デヴィッド・ピート『シンクロニシティ』（朝日出版社）
アーヴィン・ラズロ『コスモス』（講談社）

講義内容

・今後の経済動態の指標であるヴォルカー・ルール、金融取引税について
・シンクロニシティとは特定の知識カテゴリーをこえた根底をなすものであり、予測分析シナリオの構築はその“全体像の認識”という点においてシンクロニシティの概念に繋がる

予測分析シナリオ（担当：グループA）

テーマ：「日本国債の見通し」
発表内容：日銀の国債購入、バーゼルIII導入、ヴォルカー・ルール、アルゼンチンのデフォルトなどをパラメータとし、我が国におけるデフォルトの可能性について分析を発表

第20講　君たちはどう生きるべきなのか

■日時：2013年3月19日(火)19:00～21:00　（15名参加）
■課題図書：なし

講義内容

・TPPを巡るアメリカの知的財産権保護の戦略と中国、日本への交渉
・アメリカと中国の大転換と日本に集まるマネーの有効活用に対する国内の課題
・アメリカのこれからの戦略（ヴォルカー・ルール、STEM、シェール・ガス革命）

これからに向けた学生への言葉

・30歳までにすべきこと（預金とライフ・プランニング、人脈形成、賢慮を持つ）
・名を残すことではなく本人がいなくなっても事業を続かせることが本当のリーダーシップ

グローバル人財プレップ・スクール(名古屋・福岡)

課題図書一覧(名古屋・福岡)

プレ・イヴェント:神渡 良平『安岡正篤　人生を拓く』(講談社プラスアルファ新書)

第1講:太田康夫『戦後復興秘録』(日本経済新聞出版社)
有馬哲夫『原発と原爆』(文春新書)
泉井純一『夢のまた夢』(講談社)
吉村典久『日本の企業統治』(NTT出版)
根本敏則『自動車部品調達システムの中国・ASEAN展開』(中央経済社)
内永ゆか子『日本企業が欲しがる「グローバル人材」の必須スキル』(朝日新聞出版)

第2講:ユースタス・マリンズ『民間が所有する中央銀行』(秀麗社)
西村信勝『外資系投資銀行の現場』(日経BP社)
マイケル・ルイス『世紀の空売り』(文藝春秋)
水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』(日本経済新聞出版社)
原田武夫『世界通貨戦争後の支配者たち』(小学館)
エドワード・ミラー『日本経済を殲滅せよ』(新潮社)

第3講:浜田和幸『知的未来学入門』(新潮選書)
沼上幹『経営戦略の思考法』(日本経済新聞出版社)
西村行功『シナリオ・シンキング』(ダイヤモンド社)
ヴァン・デル・ハイデン『シナリオ・プランニング』(ダイヤモンド社)

第4講:なし(新聞記事(英文を含む)を課題として指定)

第5講:鈴木秀夫『超越者と風土』(原書房)
中沢新一『精霊の王』(講談社)
吉田敦彦『日本神話のなりたち』(青土社)
千田稔『伊勢神宮　東アジアのアマテラス』(中公新書)
渡邊欣雄『風水　気の景観地理学』(人文書院)

第6講:原田武夫『ジャパン・シフト　仕掛けられたバブルが日本を襲う』(徳間書店)
ジョセフ・ジャウォースキー『シンクロニシティ』(英治出版)
F.デヴィッド・ピート『シンクロニシティ』(朝日出版社)
野田智義『リーダーシップの旅』(光文社新書)
アーヴィン・ラズロ『コスモス』(講談社)
グレッグ・ブレイデン『フラクタルタイム』(ダイヤモンド社)

(※名古屋、福岡とも課題図書は共通)

講義概要（名古屋・福岡）

	場所	日時		テーマ
プレ・イヴェント	福岡	6月16日（土）	17:00〜18:30	今なぜ、福岡でグローバル人財教育、なのか？ 〜日本、アジア、そして世界を見据えた「自分磨き戦略」〜（AQUA博多）
	名古屋	6月17日（日）	13:00〜14:30	今なぜ、名古屋でグローバル人財教育、なのか？ 〜日本、アジア、そして世界を見据えた「自分磨き戦略」〜
第1講	福岡	10月27日（土）	15:30〜17:30	グローバル・マクロの世界から見た日本：これからどうなるのか？
	名古屋	10月28日（日）	13:00〜15:00	
第2講	福岡	11月17日（土）	15:30〜17:30	金融資本主義とは何か？ その基本を学ぶ
	名古屋	11月18日（日）	14:00〜16:00	
第3講	福岡	12月15日（土）	15:30〜17:30	シナリオ・プランニングの世界：“未来”を覗く方法
	名古屋	12月9日（日）	13:00〜15:00	
第4講	福岡	2013年1月12日（土）	15:30〜17:30	“情報リテラシー”の世界：定点観測と比較から未来を考える
	名古屋	2013年1月27日（日）	10:00〜12:00	
第5講	福岡	2013年2月23日（土）	15:30〜17:30	私たち日本人とは一体何者なのか： グローバル・リベラル・アーツとしての日本人論
	名古屋	2013年2月24日（日）	17:00〜19:00	
第6講	福岡	2013年3月9日（土）	15:30〜17:30	私たちは何を考え、何を行い、どこへ向かえば良いのか： シンクロニシティと自分自身の未来地図を考える
	名古屋	2013年3月10日（日）	15:00〜17:00	

※講師は全てRIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫
※福岡会場はプレ・イヴェントを除きBIZCOLI、名古屋会場はデラドーラ那古野

プレ・イヴェント

今なぜ、名古屋・福岡でグローバル人財教育、なのか？
〜日本、アジア、そして世界を見据えた「自分磨き戦略」〜

■日時：【福岡】6月16日（土）17:00〜18:30（24名）　【名古屋】6月17日（日）13:00〜14:30（18名）
■場所：【福岡】AQUA博多　【名古屋】デラドーラ那古野
■課題図書：神渡 良平『安岡正篤　人生を拓く』（講談社プラスアルファ新書）

■講義内容

・「日本経済、世界経済のこれからについてどうなると思うか」という設問について
　グループに分かれディスカッション・発表
・講師（ RIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫）より以下を説明
　—規律、礼節を徹底すること
　—“覇術”＝自らが「何ヲモツノカ」を学ぶのでなく、“王道”＝自らが「何デアルノカ」という問いに取り組むことが極めて重要であること
　—世界のどこにいても風《マネーの流れ》がどこに向かっているかを感じ取り行動に移せる能力であり、その風を掴むためのスキルとして“情報リテラシー”を磨くべきである

グローバル人財プレップ・スクール(名古屋・福岡)

第1講　グローバル・マクロの世界から見た日本:これからどうなるのか?

■日時:【福岡】10月27日(土) 15:30〜17:30　(19名参加)
　　【名古屋】10月28日(日)13:00〜15:00　(10名参加)
■課題図書:
太田康夫『戦後復興秘録』(日本経済新聞出版社)
有馬哲夫『原発と原爆』(文春新書)
泉井純一『夢のまた夢』(講談社)
吉村典久『日本の企業統治』(NTT出版)
根本敏則『自動車部品調達システムの中国・ASEAN展開』(中央経済社)
内永ゆか子『日本企業が欲しがる「グローバル人材」の必須スキル』(朝日新聞出版)

講義内容

・受講生全員による自己紹介、相手にものを伝える時のポイント
・コンドラチェフの波および各国間で違う景気の波の山を掴む重要性について
・ブレトン・ウッズ体制から現在の金融システムに至るまでの流れ

第2講　金融資本主義とは何か? その基本を学ぶ

■日時:【福岡】11月17日(土) 15:30〜17:30　(15名参加)
　　【名古屋】11月18日(日)14:00〜16:00　(11名参加)
■課題図書:
ユースタス・マリンズ『民間が所有する中央銀行』(秀麗社)
西村信勝『外資系投資銀行の現場』(日経BP社)
マイケル・ルイス『世紀の空売り』(文藝春秋)
水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』(日本経済新聞出版社)
原田武夫『世界通貨戦争後の支配者たち』(小学館)
エドワード・ミラー『日本経済を殲滅せよ』(新潮社)

講義内容

・シミュレーション実習:メガバンク6年目社員が支店長の代わりに赴任先にある地元商工会議所の会議に出席しその場で意見を求められた際に、何に注意して発言すべきか
・投資銀行の実態と欧米の金融システムの実情、日本・中国に対する狙い
・少子高齢化が進む日本における海外から富を獲得出来るグローバル人財の必要性

第3講　シナリオ・プランニングの世界：“未来”を覗く方法

■日時：【福岡】12月15日（土）15:30〜17:30　（17名参加）
　　【名古屋】12月9日（日）13:00〜15:00　（12名参加）
■課題図書：
浜田和幸『知的未来学入門』（新潮選書）
沼上幹『経営戦略の思考法』（日本経済新聞出版社）
西村行功『シナリオ・シンキング』（ダイヤモンド社）
ヴァン・デル・ハイデン『シナリオ・プランニング』（ダイヤモンド社）

講義内容

・グループ・ディスカッション：発言することの必要性、ルール・議論の枠組みを作る重要性について
・経営戦略および求められる予測分析シナリオ的思考法、予測分析シナリオと戦略の違いについて
・要因列挙法とメカニズム解明法の違いについて

第4講　“情報リテラシー”の世界：定点観測と比較から未来を考える

■日時：【福岡】2013年1月12日（土）15:30〜17:30　（11名参加）
　　【名古屋】2013年1月27日（日）10:00〜12:00　（7名参加）
■課題図書：なし
新聞記事（英文を含む）を課題として指定

講義内容

・新聞記事から読み解く各国の情勢について
・グローバル・マクロの視点を活用した海外情勢の分析
・各地方の講義
　【福岡】「起業」とは何か、他、グループ・ディスカッションを実施
　【名古屋】海外リスクへの対処、企業の被災地支援における持続可能性の担保など

グローバル人財プレップ・スクール(名古屋・福岡)

第5講　私たち日本人とは一体何者なのか:グローバル・リベラル・アーツとしての日本人論

■日時:【福岡】2013年2月23日(土)15:30〜17:30　(12名参加)
【名古屋】2013年2月24日(日)17:00〜19:00　(10名参加)

■課題図書:
鈴木秀夫『超越者と風土』(原書房)
中沢新一『精霊の王』(講談社)
吉田敦彦『日本神話のなりたち』(青土社)
千田稔『伊勢神宮　東アジアのアマテラス』(中公新書)
渡邊欣雄『風水　気の景観地理学』(人文書院)

講義内容

・「アマテラス登場」前の信仰から辿る日本人のルーツ
・世界中の神話と共通する日本神話から推察される日本が持つ固有の特性
・日本史における風水の意義、風土と人間の思考の関係
・質疑応答:教養としての「道」の思想、安倍政権の課題、日本外交についてなど

第6講　私たちは何を考え、何を行い、どこへ向かえば良いのか:シンクロニシティと自分自身の未来地図を考える

■日時:【福岡】2013年3月9日(土)15:30〜17:30　(11名参加)
【名古屋】2013年3月10日(日)15:00〜17:00　(9名参加)

■課題図書:
原田武夫『ジャパン・シフト　仕掛けられたバブルが日本を襲う』(徳間書店)
ジョセフ・ジャウォースキー『シンクロニシティ』(英治出版)
F.デヴィッド・ピート『シンクロニシティ』(朝日出版社)
野田智義『リーダーシップの旅』(光文社新書)
アーヴィン・ラズロ『コスモス』(講談社)
グレッグ・ブレイデン『フラクタルタイム』(ダイヤモンド社)

講義内容

・リーダーに求められる流れを読み取る力とcontextual intelligence(=状況を把握する知性)の重要性
・「強く想う」ことによる、世界に対する認識と自身の行動への影響
・質疑応答:アメリカの医療保険会社介入、通貨の価値保蔵機能、空売り規制など

サッカー合宿の開催

「健全なる精神は、健全なる肉体に宿る」

　これまでは座学中心に講義を行って参りましたが、2012年からは頭脳だけでなく体も鍛えることを目的に、埼玉・秩父にて、「サッカー合宿」を初めて行いました。東京の受講生の中から男子11名、女子5名の計16名が参加いたしました。普段とひと味違った議論も交えた合宿の様子をご報告いたします。
（開催日：2012年9月29日（土）、30日（日））

【1日目】

フットサル

　親睦活動として合宿一日目にフットサルを実施。各人普段見せないエネルギッシュな一面を見せていました。学生の本分は学問ですが、やはり健康であることも重要です。RIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫も参加し、気持ちのよい汗を流しました。

ディベート

　「インターネット選挙」について、公職選挙法を変えてでも実施すべきか否かを賛成反対派に分かれディベート形式で議論しました。
　「民主主義とは何か」という議題までもが生じるなど活発な議論が行われました。
　RIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫からアドヴァイスと共に説得力のある説明をするための模範プレゼンテーションなども行われました。
　学生たちからも「自分たちのプレゼンに不足している要素が把握出来た」「今後も継続的に行ってほしい」と熱い要望の声が上がりました。

【2日目】

RIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫講義

テーマ：本当に伝わる発話コミュニケーション
　相手に物事を「伝える」のではなく「伝わる」にはどのようにすれば良いのかということを中心に前半は講義、後半は受講生の発表形式で実施

講義でのポイント

- 相手のことを考えて話す
- 相手が関心を寄せるような仕掛けをする
- 「理や情にも訴える」話し方（ボディ・ランゲージや呼吸、目線）を意識する

講義の内容を踏まえ以下を学生が実施

①自己紹介
②特定のシチュエーションでの発言
③旧外交官試験で実際に出題されたテーマに関する模擬ディスカッション

　泊りがけでじっくりと話を聴き、議論する時間が取れたことで「大変有意義な時間を過ごせた」と参加学生にも良い刺激となったようです。

グローバル人財プレップ・スクール

これまでの修了生たちの主な進路

2012年度修了生(内定先)

[民間企業]
株式会社　東芝(1名)
有限責任 あずさ監査法人(1名)
株式会社三菱東京UFJ銀行(1名)
日本電産株式会社(1名)
株式会社ワールドプラス(1名)
株式会社セブン-イレブン・ジャパン(1名)
株式会社ガリバーインターナショナル(1名)
株式会社エイチ・アイ・エス(1名)
リッキービジネスソリューション株式会社(1名)

2011年度修了生

[民間企業]
デロイト トーマツ コンサルティング株式会社(1名)
川崎重工業株式会社(1名)
三菱マテリアル株式会社(1名)
スカイライトコンサルティング株式会社(1名)
株式会社　みなと山口合同新聞社(1名)

2010年度修了生

[民間企業]
富士通株式会社(1名)
株式会社ディー・エヌ・エー(1名)
ヤフー株式会社(1名)

[大学院]
東京大学大学院(3名)
京都大学大学院(1名)

2009年度修了生

[中央官庁]
財務省(1名)
外務省(1名)

[民間企業]
日本銀行(1名)
株式会社三井住友銀行(1名)
株式会社三井住友信託銀行(1名)
カシオ計算機株式会社(1名)
株式会社　東芝(1名)
アクセンチュア株式会社(1名)
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社(1名)
株式会社 電通(1名)

[大学院]
ハーバード大学大学院(1名)

2008年度修了生

[中央官庁]
財務省(3名)
外務省(2名)

[地方公共団体]
東京都庁(1名)

[民間企業]
日本銀行(1名)
株式会社　東芝(1名)
三菱商事株式会社 (1名)
マッキンゼー・アンド・カンパニー(1名)
兼松株式会社(1名)
バークレイズ・キャピタル証券株式会社(1名)
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行(1名)
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社(1名)

[大学院]
名古屋大学法科大学院(1名)

※現時点で進路が確定していない当スクール修了生の状況は反映されておりません（定期的に更新して参ります)。
※2010 年度以降、１・２年次の学生が増加しております。

3.グローバル人財スカラーシップ

グローバル人財スカラーシップ

「グローバル人財スカラーシップ」の意義と目的

「グローバル人財スカラーシップ」は、「グローバル人財プレップ・スクール」と並ぶRIJAG/IISIAによる社会貢献事業の一つですであり、我が国、そして国際社会の未来を担うべき若者たちが充実した学生生活を送ることが出来るよう、学資サポートを行う奨学金制度です。返還義務なしの完全給付制に加え、所属大学・大学院や専門分野、さらには一般には奨学金制度の対象とはなっていない場合の多い博士課程前期（修士課程）も含め、広く学生一般を申込資格者としている点に特徴があります。

少子高齢化が進み先行きの見えない我が国にあって、多くの学生が学費やその他研究費用などの金銭面で困窮しています。完全給付型である「グローバル人財スカラーシップ」が果たすべき役割はそうした状況下であるからこそ、ますます大きくなりつつあります。

「グローバル人財スカラーシップ」の受給者決定にあたっては、様々な角度から検討を行っています。研究テーマの重要性のみならず、男女の別、あるいは地方と都市部の比較など、その都度あるべき我が国の将来像をイメージしつつ、RIJAG/IISIA内にて設置した委員会にて厳密な審査を行っています。選ばれた受給者たちは受給の成果である研究の発表を、IISIAの会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」ゴールド会員様限定懇親会の場で年1回行うことが義務付けられています。この点も、本奨学金制度のユニークな点です。

2012年度「グローバル人財スカラーシップ」概要

募集要項

・給付対象者
国内で在学中の大学生
および大学院生

・給付金額
年額10万円（1名につき）

・給付時期
2012年12月、2013年3月
（5万円ずつ2回に分けて給付）

選考について

一次選考（書類選考）

課題エッセイによる選考を行い、2名の学生を選出した。
エッセイのテーマは以下のとおり。

「円高・少子高齢化が進行する中でグローバルな競争が加速し、
新しい日本の姿が模索されている現在において

**1.グローバルな視点で日本ひいては世界に貢献するため
日本人として何が出来るか**

**2.東北の経済復興をはじめ各地域を起点として
日本のこれからのためにあなたが出来ること**

について自由に論ぜよ」

二次選考(面接)

東京、名古屋でRIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫自らが面接を実施、受給者2名を決定

2012年度「グローバル人財スカラーシップ」選考の流れ

2012年

●9月	公式ホームページにて募集開始
●10月19日	応募締切、書類審査
●12月4日～12月7日	東京・名古屋にて面接実施
●12月7日	受給者決定
●12月28日	受給者へ奨学金給付（1回目）

2013年

●3月2日	「原田武夫ゲマインシャフト」ゴールド会員様懇親会にて受給者より研究内容を発表
●3月29日	受給者へ奨学金給付（2回目）

グローバル人財スカラーシップ

応募者一覧(順不同)

大学	学部・学科	研究テーマ・関心分野	学年	性別
慶応義塾大学大学院	理工学研究科 基礎理工学専攻	研究テーマ：低温物理学/ナノ多孔体中超流動ヘリウム4の電場効果 関心分野：英語、異文化理解と異文化コミュニケーション、源氏物語	修士１年	男性
愛知県立大学	外国語学部　国際関係学科	関心分野：国際関係学、近代史、思想	2年	女性
京都大学大学院	理学研究科 生物科学専攻	研究テーマ：造礁性イシサンゴ類2科(オオトゲサンゴ科及びウミバラ科)の系統進化及びそれらに生息するサンゴヤドリガニ類との共進化、Bio-Opticsを用いたサンゴ健康指標の確立 関心分野：海洋生物学、生態学、分子生物学、光学、集団遺伝学	博士2年	女性
京都大学大学院	理学研究科 地球惑星科学専攻	研究テーマ：沈み込み帯において形成される高圧変成岩の形成温度・圧力の解明とその意義	修士2年	男性
京都大学大学院	経営管理教育部 経営管理専攻	研究テーマ：製造業のグローバル展開と日本のFTA/EPA戦略 関心分野：企業価値評価と企業のM&A戦略	修士1年	男性
京都大学大学院	薬学研究科 薬科学専攻	研究テーマ：グリア細胞の生理的および病態的機能解析 関心分野：TRPチャネルを標的とする創薬	修士1年	男性
大阪大学大学院	工学研究科 地球総合工学専攻	研究テーマ：統合化構造解析システム化において，2軸曲げと軸力が作用する柱の弾塑性解析プログラムの作成	修士1年	女性
九州大学大学院	統合新領域学府 ユーザー感性学専攻	研究テーマ：企業のブランドデザイン。企業の目指すブランドと、社員自身のブランドのズレ	修士1年	女性
九州大学大学院	工学府 水素エネルギーシステム専攻	研究テーマ：次世代自動車による社会的影響度評価に関する研究 関心分野：エネルギー安全保障を中心に安全保障問題全般	博士3年	男性
大阪大学大学院	経済学研究科 経営学系専攻	研究テーマ：中小企業における会計情報開示の現状、課題の抽出、対策案の考案。日本の自動車産業のサプライチェーンにおけるマネジメント。無形固定資産とＩＴ導入の因果、投資とリターンの相関性と起因の解明	博士1年	男性
東北大学大学院	経済学研究科 経済経営学専攻	研究テーマ：管理会計、バランスト・スコアカードの導入による影響	博士1年	男性
国際基督教大学大学院	アーツ・サイエンス研究科 心理・教育専攻	研究テーマ：第二言語習得の場面での、ライティングの習得と喪失 関心分野：哲学（ハイデッガー）の学問の規定	修士1年	男性
東京工業大学大学院	総合理工学研究科 化学環境学専攻	研究テーマ：福島第一原発事故由来放射性核種の再飛散の解明	修士1年	男性
兵庫県立大学大学院	経営研究科 経営専門職専攻	研究テーマ：商店街の活性化プロジェクト 関心分野：宇宙ビジネス、人的資源管理	修士1年	女性
慶應義塾大学法科大学院	法務研究科	研究テーマ：法律学（一般民事法・労働法）、途上国の法整備支援・開発法学	修士2年	男性
神戸大学大学院	システム情報学研究科 情報科学専攻	研究テーマ：ヘルスケアシステムLSIの設計と、これに関する半導体回路・無線・アルゴリズム・データマイニング技術等の研究・開発	博士1年	男性
京都大学	教育学部　教育科学科	関心分野：比較教育学、各国の英語教育事情について	2年	男性
大阪大学	人間科学部　人間科学科	関心分野：日本にいる非正規滞在者、難民、移民	3年	女性
慶應義塾大学	総合政策学部　総合政策学科	研究テーマ：Information and Communication Technology（ICT)が子供の教育に与える効果 関心分野：開発途上国における教育問題	3年	男性
岡山大学	医学部　保健学科 看護学専攻	研究テーマ：公衆衛生（予防）・疫学	3年	女性
明治大学	農学部　生命科学科	研究テーマ：がんの原因となる遺伝子の特定とその機能について 関心分野：がん細胞を利用した、生命現象の解明と応用、遺伝子の働き	2年	男性
明治大学	治経済学部　政治学科	関心分野：東日本大震災からみる、わたしたちとメディアの在り方、メディアの普及から見えてくる、メディアとの付き合い方	2年	女性

2012年度受給者およびコメント

宇都野　聡士　（うつの　さとし）

・所属：慶應義塾大学大学院　理工学研究科・基礎理工学専攻・物理学専修 修士1年
・研究テーマ：低温物理学/ナノ多孔体中超流動ヘリウム4の電場効果
・研究内容：液体ヘリウムに関する研究
（-200℃の低温状態で電場をかけた際のヘリウムの挙動）
・選考理由：
研究内容が地球物理や地球磁場に応用される最先端のテーマであり、将来に向けて我が国、国際社会の発展に貢献出来ると判断。また、単なる技術者に留まることなく、海外に対し我が国とのかけ橋として技術者という立場から貢献したいという考え方を評価し選定いたしました。

本人のコメント

今回、「グローバル人財スカラーシップ」受給者に選んで頂きまして、非常に嬉しく思います。また会員の皆様には大変感謝申し上げます。私は、物性物理学の中の低温物理という分野の研究を行っています。液体ヘリウムの温度を氷点下270℃付近まで冷やして、その時の現象を観察するという実験をしています。具体的には、液体ヘリウムの粘り度合いの指標である粘性が消失してしまう超流動状態に着目して、液体ヘリウムの性質を調べています。

今回の志望動機は、普段の物理の研究で培った物理の理論的思考や問題解決能力を、卒業後に技術者になり日本だけでなくグローバルに活かしたいという思いです。過去の留学経験も活かし、技術力と英語力を武器に世界的に活躍出来る人材として働けるようになろうと考えています。日々の研究活動や英語学習により一層努力していきたいと思います。

粟津　万理　（あわづ　まり）

・所属：愛知県立大学　外国語学部国際関係学科　2年
・関心分野：国際関係学、近代史
・研究内容：日本のナショナリズムについて研究予定
・選考理由：
我が国の将来に対して「高品質革命」を軸とした展開プランなど独自の視点を持っていること、更には外交官になり我が国の安全保障に貢献したいという明確な目標を掲げ行動している点を評価し選定いたしました。

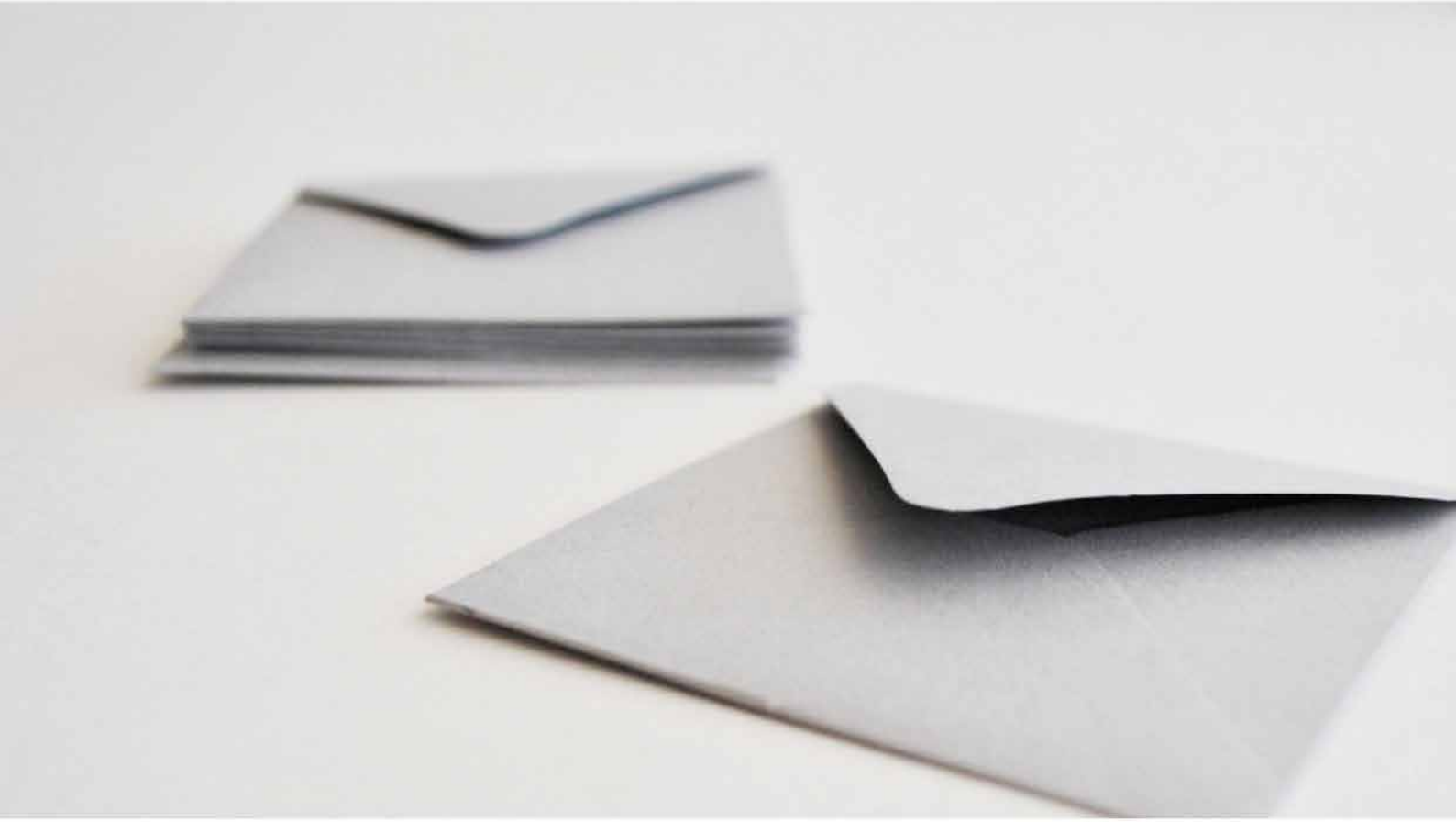
本人のコメント

この度はグローバル人財スカラーシップにご採択頂き、ありがとうございます。私は現在、将来の目標である外交官を目指して勉強に励んでいます。課題エッセイのテーマ、「世界に貢献するために日本人として何が出来るか」「東北の経済復興をはじめ日本のために出来ること」という問題提起に自分の言葉で答えることが出来るか、力試しをしてみたいと思ったことが応募動機の一つです。

世界への貢献、と聞くと、我々は外の世界の価値基準に合わせようと考えがちですが、日本が出来る「貢献」とは、日本にしか出来ないこと、日本の持つ普遍的な価値観を今居る場所から広めていくことではないかという思いから課題エッセイを書かせて頂きました。

現在大学で学んでいる国際関係学、国際政治学もそのような視点を持って今後より深くアプローチしていこうと考えています。今回の奨学金受給を機にがんばろうという決意を新たにしました。

4.社会貢献事業に対する声



修了生インタビュー

「グローバル人財プレップ・スクール」の前身である「IISIAプレップ・スクール」の修了生は、社会に出てどんな活躍をしているのでしょうか。彼らがこれまで学んだことを現在どう活かしているのか、修了生の四家隆さん、梅村健登さん、大橋祐介さんにインタビューしました。
※「IISIAプレップ・スクール」は2012年4月より「グローバル人財プレップ・スクール」に改名いたしました。

この人に聞きました！

・四家　隆（よつや　たかし）さん
・三菱マテリアル株式会社 銅事業カンパニー 直島製錬所
・2008～2011年度「IISIAプレップ・スクール」受講

現在の所属・業務内容について

四家さんの所属とお仕事内容を教えてください。

三菱マテリアル株式会社の銅事業カンパニー直島製錬所に勤務しています。
現在担当している仕事は、主に直島製錬所のリサイクル原料受け入れ業務、原料納入のweb予約システム企画、ならびに既存の原料管理システムの更新企画です。

なぜ今の会社を希望したのですか？

資源の少ない日本にとって、鉱物資源の安定した供給と廃棄された製品の効率的な再資源化は避けて通ることの出来ない課題であると思います。
三菱マテリアルは川上の鉱山投資、開発から川下の銅加工まで一貫して行っており、またリサイクルへの全社的な取り組みも進んでおり、携わる仕事と自分の問題意識が一致していたからです。
現在は直島製錬所にてリサイクル関係の仕事をする傍ら、リサイクル業界の現状と動向について勉強している毎日です。

「IISIAプレップ・スクール」について

「IISIAプレップ・スクール」の経験が活かされていると感じる点は何ですか？

原典、原本を踏まえ議論するという「IISIAプレップ・スクール」での経験は会社員となってからも自分の根幹にあります。
モノづくりの現場でも改善活動などに関連して３現主義（現場・現物・現実）ということが言われます。
仕事を覚えるにしろ、改善活動を行うにしろ、企画を立てるにしろ、現場・現物・現実に根ざしてなければ空論で終わってしまいます。
ですから自身の業務でも、1日中現場の実作業を観察し時には自分自身で行ったり、過去の伝票をすべて調べたりと、事実に基づいた思考と提案が出来るよう努めています。

「IISIAプレップ・スクール」に参加しようと思ったのは何故ですか?

高校・大学の講義で習う、政治・経済・法律・社会といった細分化された科目を勉強するだけでは、自分自身で世の中の構造と今後を考えることが出来ないと感じていたからです。

大学でも特定の専門分野でいくつもの仮定に支えられた議論を続けることに限界を感じていたため、実践的な政治経済学を学ぶ場を求めて、「IISIAプレップ・スクール」に参加しました。

「IISIAプレップ・スクール」を受けた中で印象的だったことは何ですか?

講義ごとに課題として提示される書籍が、非常に広範な分野・年代にわたっていて、それまでの自身の興味の狭さを改めて痛感しました。

中には数百ページもの洋書や、すでに絶版となり手に入らない古書もありましたが、国会図書館で探し、辞書を引きながら読んでいました。

出された課題に対して、どうすれば出来るかを考え、徹底して取り組むという姿勢は会社員になってもいっそう求められる態度ですが、大学生のうちにこのようなハードな課題に取り組むことで身につけることが出来たことは、大変ありがたいことであったと思います。

大学生へのメッセージ

「グローバル人財プレップ・スクール」に参加している学生の皆さんには、フレッシュな新入生から就職活動中の4年生まで色々な方がいらっしゃることと思いますが、スクールでの課題に取り組み、積極的に議論をすることと同時に、ぜひとも現場・現物・現実に根ざして考え、行動してほしいと思います。

講義においてもただ話を聞くのと、事前に原本を読み疑問点を洗い出してから臨むのとでは得るものが異なるでしょうし、語学の勉強であっても、現地に一度でも行ったことがあるのと全くないのとでは、身の入り方が違うと思います。

「原田武夫ゲマインシャフト」会員様に向けてのメッセージ

会員の皆様のおかげで、「IISIAプレップ・スクール」にて無償で貴重な講義を受けることが出来ました。本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

会員の皆様のご期待に応えることが出来るよう、今後とも学び続け、人の役に立てるよう努めて参ります。

修了生インタビュー

この人に聞きました！

梅村　健登　（うめむら　けんと）さん
富士通株式会社 流通ビジネス本部 東日本統括営業部 神奈川営業部
2010年度「IISIAプレップ・スクール」受講

現在の所属・業務内容について

梅村さんの所属とお仕事内容を教えてください。

2012年4月に富士通株式会社に入社し10月から流通ビジネス本部 東日本統括営業部 神奈川営業部に配属されます。神奈川県に本社を構える流通業のお客様に対してICTシステムを提供することが主な仕事です。9月末までは研修中であるため実際にICTシステムを導入する現場にはまだ携わっていませんが、配属後にICTを用いてお客様のビジネスをより実りの多い形に変えるお手伝いが出来ることを楽しみにしています。

なぜ今の会社を希望したのですか？

一番大きな理由は、仕事を通じて「自分自身を高めながら世の中を良い方向に変えたい」という私の志に最も合致した会社だと思ったからです。他社にはない技術で世の中を変える力があり、かつ自分が会社の説明を聴いて一番共感出来た会社でした。この志はこれからも常に高く持ち、自分に出来ることから着実に進めていきたいと思っています。

「IISIAプレップ・スクール」について

「IISIAプレップ・スクール」を受けて良かったことは何ですか？

一つは自分のキャパシティが広がったことです。
「IISIAプレップ・スクール」では今まで経験をしたことのない課題が出されたのですが、特に英文記事の読解は当時英語力が十分ではなかった私には非常に大変でした。ただ、受講している間に毎週のように自分のキャパシティが広がっていくのが分かりました。受講を重ねるうちにたとえ分厚い洋書であってもひるまなくなりました。この経験により困難に思える課題であってもやり切る力がついたと実感しています。

また、「IISIAプレップ・スクール」で世界経済や政治の歴史的背景を学ぶ中で「物事は様々な事象が重なり合って起こっている」という視点と「物事には表に現れる部分と表に現れない裏の部分がある」という目線を持てるようになりました。
お客様など相手の方が置かれている状況を把握し、相手の方が言葉にされたことの真意は何なのかを考える素養が身に付いたと考えています。

大変な時期もあったと思いますが一年間スクールを続けられた原動力は何ですか？

原田先生が常にスパイスの効いた講義を行ってくださったことです。話を聞いているだけで面白いし、いつも深いことを隠し持っているようでなかなか話してくださらない。より深い話を聞きたいが次の回の授業に出るためには毎回課題を出さなければならない。それを途中で止めるのも嫌でしたし、自分自身がハードルがあったら越えたいという想いが強く課題は絶対最後までやろうと想い続けて最終講義まで来ました。
私の同期が博学で、それが刺激にもなっていたように思います。振り返ると猛烈な知識欲に駆られていた記憶があります。

「IISIAプレップ・スクール」を受けた中で印象的だったことは何ですか？

原田先生が一度、緩んだ空気を引き締める意味も込めて学生全員に「お叱りメール」を送られたことがあったんです。「公のために尽くしたい、世の中に貢献したいという考えがある人こそが本物だ。そういう考えもなく自分の利益のためのみに動くようなことはするな」と。私自身が持っていた志にリンクする部分でもあって今でもよく覚えています。

他にも講義の最初の頃「原田武夫ゲマインシャフト」会員の方が見学にこられた時に、原田先生から「お越し頂いたお客様に、まして君たちを支援してくださっている方に挨拶をしないとはどういうことだ！」と注意されたことがあり、それから挨拶を徹底するようになりました。その後、挨拶をきっかけに人脈が広がるなどの経験もあり、当たり前ですが大事なことを教わったと思います。

また、自分が就職活動で悩んだことがあって先生に相談した時には「自分の信念をしっかり持ってやりなさい。いくつかある会社の一つとしてではなく、『この会社しかない』という強い想いが必要だ」という言葉に後押しされ、就職活動を頑張れた思い出もあります。

大学生へのメッセージ

おそらく、「グローバル人財プレップ・スクール」で学ばれている皆さんは、高い志をお持ちだと思います。しかし社会人になると就職した会社によって一人一人社会の見え方が変わってくるのではないかと思います。

皆さんが今後どのような環境に行かれても今持たれている志を忘れることなく、社会に対して役に立つことの出来る人となるためには確固たる自分自身の軸を築くことが大切だと思います。この軸を築くにあたり「グローバル人財プレップ・スクール」は非常に良い学びの場であると思います。

原田先生のご指導には古くから世界のリーダー達が培ってきた決して陳腐化することのない方法論が盛り込まれていたように感じます。毎回の講義や課題図書を読むことを通して知識だけでなく、自然とその考え方を身に付けることが出来たと思います。

そのことを実感したのは就職活動の時でしたが、この考え方はどのような環境でも通用するものだと感じるにつれ自分の中でしっくりきました。

また志を成し遂げるためには軸を強くする必要があると思います。それは志が大きいほど、待ち構える試練も大きなものになると予想されるからです。
私はスクールに通い続けることでこの軸を強くすることが出来たと思っています。

私は社会人駆け出しの段階ですが志を実現するまでの道程は非常に長いことを感じさせられました。
志を成し遂げるためには、一つ一つ目の前のことに取り組んで行く必要があります。それは地道なことですが同じことを行うにしても常に軸を据えて行動することで、着実に志を実現することに繋がっていくと考えています。

皆さんも「グローバル人財プレップ・スクール」で一年を通して学ばれる中で、どのような環境でも通用する強い軸を築かれることを期待しています。共に日本、そして世界を良くして行きましょう。

「原田武夫ゲマインシャフト」会員様に向けてのメッセージ

学生の頃、無償でありながら原田先生からこれだけ充実した講義を受けられることに驚いたこと、会員の方にお会いした際に「頑張ってね」と声をかけられ嬉しく思ったことを今でも覚えています。会員の方の支えがあるおかげで自分達が学べていることに改めて感謝しています。
ありがとうございます。

修了生インタビュー

この人に聞きました！

大橋　祐介　（おおはし　ゆうすけ）さん
スカイライト コンサルティング株式会社 コンサルティング本部
2011年度「IISIAプレップ・スクール」受講

現在の所属・業務内容について

大橋さんの所属とお仕事内容を教えてください。

2012年4月に入社し、現在は業務改善に向けた改革を行うプロジェクトに参画しています。具体的には、J-SOX対応の業務効率化の企画立案とその実行を行っています。クライアント企業が抱える課題を分析し、ただ処方箋を提示するのではなく、そのソリューションがしっかりと現場に浸透・定着するところまで関わっています。

若手として、今は戦略立案型のプロジェクトではなく、業務改善型のプロジェクトに入って積極的に現場視点を養い、経験を積んでいます。クライアントの信頼を得て、現場の人を上手くマネジメント・ファシリテートしながら周りを巻き込んでさらに強い組織を作っていく。泥臭い所もありますが、強いやりがいを感じて仕事に取り組んでいます。

「IISIAプレップ・スクール」の経験が活かされていると感じる点は何ですか？

スキル面では「どういった情報を取得し、それをどのように咀嚼し、得られた知見をどう使うのか」といった“情報リテラシー”が今の業務に活かされています。“情報リテラシー”の有無でクライアントの心の琴線に響く提案が出来るかどうかが変わってくると感じています。

また重要な情報は人を介さないと得られないことが多いのですが、その為には色々な方との関係構築が欠かせません。講義中に原田先生から頂いた「まずは相手に与えるところから始めるべき」等のアドバイスが活きていますし、他の学生の発表を受けて、ただ課題を指摘するのではなく、相手のためにより良い提案をするよう意識して取り組んだ経験が、特に現場調整を行っている今の自分に繋がっています。

「IISIAプレップ・スクール」について

「IISIAプレップ・スクール」に参加しようと思ったのは何故ですか？

2011年の春に就職活動を行っていた頃、不況による就職難が叫ばれており、また東日本大震災によってさらに閉塞感が増すという状況でした。

そのような状況でこれまで漠然と捉えていた未来に対する考え方が変わり、自分はどう生きるかを改めて考えさせられました。また周りが不安に落ちているからこそ逆に自分は自身を高めていこうと決心したことを覚えています。ちょうどその頃に「IISIAプレップ・スクール」を知り、その理念や内容に共感して参加を決めました。

講義を受ける際にはどういうことを意識しましたか？

ロール・モデルとして原田先生を良く見て、出来る限りのことを吸収しようとしていました。原田先生が何から話し始めて、どのような考えやメッセージをもって行動し、また話を展開するのかを全部メモをとるくらいの気持ちで講義に臨んでいました。

原田先生を見て学んでいると、自分の位置づけがはっきり見えてくるようになり、先生と自分のギャップを埋めるためには何をすれば良いかを考えるようになりました。当事者意識も強くなりましたし強烈な原体験が自分の原動力となりました。

同時に原田先生に対しても「私は先生のこういう点がスゴいと思っており、かつ自分に足りないと思っています。そのためこうしたいと思っていますがアドバイスを頂けますか」と聞くと先生は喜んで話してくださいました。こういった学生の相談に対して原田先生も真剣に向き合って頂けたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

講義の中で一番印象的だったことは何ですか？

最終講義での原田先生の言葉が印象深く、今でもはっきりと覚えています。

「変化の激しい社会でより自分の立ち位置を考えなければいけない。その際に、幅広い視点を持って全体を広く俯瞰する思考が必要だ」「仕事のロールモデルを見つけて、徹底的に真似しろ」といった言葉を頂きました。

他ならぬ原田先生のお話でしたので説得力がありましたし、最後の講義では単なる知識や講義内容のまとめではなく、本当に先生が伝えたいことをお話し頂いたという気がしました。受講生に対する先生の想いが伝わってきて心に残った講義でした。

大学生へのメッセージ

「グローバル人財プレップ・スクール」という「場」は与えられているので、そこから何を得るかは個人次第だと思います。何を学んでどう今後に活かすか、何を教訓として自分はどういう道を歩くのか。そういうところを認識することが大事です。

受講の際には、与えられる立場に甘えずに原田先生のことをよく知ろうとすること、吸収出来るものは全て吸収して自分と照らし合わせることを意識すると良いと思います。

優秀な学生さんたちが集まる「IISIAプレップ・スクール」だからこそ、変なプライドは捨てて学ばせて頂いているという感謝の心と謙虚な姿勢が特に求められます。皆さんは「自分が成長したい」と思っているからこそ、この場に集まっているのだと思いますが、ただ単に自分の成長だけを目標にしていると、時には原田先生が教えてくださることを謙虚に吸収出来ないことがあると思います。

逆に謙虚な姿勢が身につくと、自分の出す毎回の報告やプレゼンテーション資料に対して「本当にこれがベストか」を考えられるようになります。原田先生という高い比較対象と自分自身を比べることで「これくらいでいいかな」という妥協も無くなりますし、良質なフィードバックを頂いて次に活かす事が出来ます。共に学ぶ仲間に対してもお互いを尊重し合い、ナレッジを共に高め合いましょう。謙虚であること、素直であることが大事です。

そのマインドが醸成出来るようになると、自分の成長についても原田先生をはじめ周りの仲間のアドバイスをうまく活かし、毎日の生活や未来の方向性を考えられるようになります。そこまで自分を見られるようになれば周りに対する働きかけ、リーダーシップも変わってくると思います。

「原田武夫ゲマインシャフト」会員様に向けてのメッセージ

RIJAG/IISIAの社会貢献活動に対してご支援いただいている会員様にはいつも感謝をしております。皆様が原田先生の教育を通じた我々学生の育成に共感・賛同してくださっているということをとても嬉しく感じており、卒業生として誇りに思っています。

正直、学生時代には自分達が「与えられる立場」にいると感じ、会員様を意識する機会は多かったとはいえませんが、社会人になってビジネスの大変さやクライアントの信頼を得ることの大変さを知るようになってから、IISIAにとってのクライアントである会員様の大切さを感じると同時に、より感謝の念が強くなりました。貴重な場を頂きありがとうございます。

これからは修了生として、「IISIAプレップ・スクール」で学んだことを活かし、社会に還元していくことで会員様、原田先生の想いに応えていきたいと思っています。

5. 2013年度におけるプログラム予定

2013年度「グローバル人財プレップ・スクール」

2013年度の基本方針

東京では我が国の「外務公務員(外交官)」を目指す学生を育成

財政危機が迫り、刷新を迫られている日本。この状況に鑑み、「公」の志を強く持ち、対外的に我が国の見解・意向をしっかりと表明することの出来る人財を育てるべく活動方針の刷新を図ります。

具体的には外交官・国家公務員キャリア・国際公務員を目指し努力する学生が集う場所とし、健全なる“公”の意識の醸成をベースに集中した教育を行って参ります。

IISIAオリジナルのeラーニング・プログラムを無償で提供

受講生に限り、IISIAオリジナルのグローバル人財育成eラーニング・プログラム「グローバル・ステップ」(有料)を無償で提供し、自習の機会を設けます。

※名古屋・福岡など、地方での開催は2013年秋以降を予定しています(2013年3月現在)。
RIJAG公式WEBサイトにて随時お知らせいたします。

東京におけるプログラム(予定)

●「イントロダクション」

【講師】RIJAG代表理事/IISIA代表・原田武夫(以下同じ)
【場所】株式会社原田武夫国際戦略情報研究所　セミナールーム(以下同じ)
【課題図書】原田武夫『「日本バブル」の正体　～なぜ世界のマネーは日本に向かうのか』(東洋経済新報社)
・第1講　5月7日(火)18:00～20:00(以下、時間同じ)

(5月:eラーニング・プログラムを提供予定(必修))

●「国家とは何か」

【課題図書】原田武夫『国家の読み解き方　憲法学という教養』(勁草書房)
・第2講　5月21日(火)
・第3講　6月4日(火)
・第4講　6月25日(火)

●「外交とは何か」

【課題図書】原田武夫『アメリカ秘密公電漏洩事件　ウィキリークスという対日最終戦争』(講談社)
・第5講　7月2日(火)
・第6講　7月17日(水)
・第7講　7月30日(火)
・第8講　8月6日(火)

(9月　中間試験を実施予定)

●「金融資本主義とは何か」

【課題図書】原田武夫『世界通貨戦争後の支配者たち』(小学館)
・第9講　10月16日(水)
・第10講　10月22日(火)
・第11講　11月5日(火)

●特別講義　11月中旬(予定)

ゲスト講師による講義
【講師】中央官庁　幹部職員への依頼を予定

●「欧州とは何か」

【課題図書】ハーバート・ファイス『帝国主義外交と国際金融』(筑摩書房)
・第12講　11月19日(火)
・第13講　12月3日(火)
・第14講　12月17日(火)

●「アメリカとは何か」

【課題図書】三谷太一郎『ウォール・ストリートと極東　政治における国際金融資本』(東京大学出版会)
・第15講　2014年1月7日(火)
・第16講　2014年1月21日(火)
・第17講　2014年2月4日(火)

●「日本とは何か」

【課題図書】吉田敦彦『日本神話のなりたち』(青土社)
・第18講　2014年2月18日(火)
・第19講　2014年3月4日(火)

●「真の“公”を目指して」

・第20講　2014年3月18日(火)

(3月　修了試験を実施)

※諸般の事情により日程、講義内容は変更となる場合があります
※課題図書は上記掲載のものに加え2〜3冊(英文図書を含む)程度を予定しています

6.賛同金のご報告とご支援のお願い

賛同金のご報告とご支援のお願い

2012年度賛同金のご報告

2012年度RIJAG/IISIAが実施して参りました社会貢献事業に対してIISIAの会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」および賛助会員制度「立柱創史会」において多くの会員の皆様からご賛同金のご協力を頂きました。

ご賛同頂きました皆様にこの場を借りて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。ここに、本社会貢献事業へのご賛同金実績を下記のとおりご報告いたします。

【2013年3月1日現在】

会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様からのご賛同金
小計56口(56万円)

賛助会員制度「立柱創史会」会員様からのご賛同金
小計10口(10万円)

合計66口(66万円)

今後とも私共の社会貢献事業に変わらぬご厚情とご厚誼を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

助成金によるご支援のお願い(企業様並びに助成財団様)

一般社団法人日本グローバル化研究機構(RIJAG)は社会貢献事業に対する企業様並びに助成財団様からのご支援をお願いしております。
将来の日本を支える大学生・大学院生により充実した教育を実施していくために是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。

助成金について詳しくは以下より社会貢献事業担当までお問い合わせください。

●インターネット
下記URLにアクセス頂き「お問い合わせの種類」より
「助成金に関するお問い合わせ」をご選択の上、お問い合わせください。

http://www.japans-globalization.org/inquiry

●電話:042-537-7750
(音声案内[4:一般社団法人日本グローバル化研究機構等の社会貢献事業に関するお問い合わせ]-[1:一般社団法人日本グローバル化研究機構についてのお問い合わせ])

IISIAでは社会貢献事業に対し、ご協力頂ける方からのご支援を広く受け入れております。
明日の我が国、そして世界を担う有意な学生たちのため、何卒宜しくお願い申し上げます。

会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」

IISIAの社会貢献事業を支える会員制サーヴィス

原田武夫ゲマインシャフト

会員の皆様から頂戴いたしました会費から生じる利益の約50%を明日の日本を担う学生たちに対する社会貢献事業に役立たせて頂いております。
会員制度の詳細については http://www.haradatakeo.com/p/geme をご覧ください。

お申込み方法

「原田武夫ゲマインシャフト」ご入会希望の旨と共に
お申込みご希望コース（ゴールド、シルバー、ブロンズ、ダイヤモンド いずれか）、
お名前、ご住所、メールアドレス、お電話番号、会社名、お役職、
月会費、年会費いずれを希望かをご記入の上、以下のいずれかの方法でお送りください。
※ご入会に際しましては、事前審査がございます。あらかじめご了承ください。

インターネット

下記URL「原田武夫ゲマインシャフト」お申込みフォームに必要事項をご記入の上、ご送信ください。
http://www.haradatakeo.com/p/geme/regist.html

メール

件名を「原田武夫ゲマインシャフト会員　入会希望」として
本文に上記の必要事項をご記入の上 support@haradatakeo.com までお送りください。

FAX

上記の必要事項をご記入の上、042-537-7751までお送りください。

郵送

上記の必要事項をご記入の上、下記住所までお送りください。
〒186-0002　東京都国立市東1-4-15 国立KTビル6F
株式会社原田武夫国際戦略情報研究所「原田武夫ゲマインシャフト」会員担当宛て

ご不明な点は下記より「原田武夫ゲマインシャフト」担当までお問い合わせください。
お電話：042-537-7750
（音声案内[3:教材およびセミナーに関するお問い合わせ]-[1:会員制サーヴィスに関するお問い合わせ]）
営業時間　9:00～17:30（土・日・祝日を除く平日）
メールでのお問い合わせも承っております。
support@haradatakeo.com までお問い合わせください。

賛同金のご報告とご支援のお願い

賛助会員制度「立柱創史会」

立柱創史会

賛助会員制度の詳細については http://www.haradatakeo.com/c/supporter をご覧ください。

お申込み方法

お名前、ご住所、メールアドレス、お電話番号、会社名、お役職、
月会費・年会費いずれをご希望かをご記入の上、以下のいずれかの方法でお送りください。
※ご入会に際しましては、事前審査がございます。あらかじめご了承ください。

インターネット

下記URLにアクセスいただき、お問い合わせ内容に「立柱創史会への入会希望」とご記入の上、ご送信ください。

http://www.haradatakeo.com/c/inquiry.html

メール

件名を「立柱創史会　入会希望」として本文に上記の必要事項をご記入の上

support@haradatakeo.com までお送りください。

FAX

上記の必要事項をご記入の上、042-537-7751までお送りください。

郵送

上記の必要事項をご記入の上、下記住所までお送りください。

〒186-0002　東京都国立市東1-4-15 国立KTビル6F
株式会社原田武夫国際戦略情報研究所「原田武夫ゲマインシャフト」会員担当宛て

ご不明な点は下記より賛助会員担当までお問い合わせください。
お電話：042-537-7750
（音声案内[3:教材およびセミナーに関するお問い合わせ]-[1:会員制サーヴィスに関するお問い合わせ]）
営業時間　9:00～17:30（土・日・祝日を除く平日）
メールでのお問い合わせも承っております。
support@haradatakeo.com までお問い合わせください。